



鳥居 寛之
小豆川勝見
渡辺雄一郎
著
中川 恵一
執筆協力

科学的に
理解する

基礎からわかる東大教養の講義

丸善出版

「放射線を科学的に理解する

— 基礎からわかる東大教養の講義 —

鳥居寛之・小豆川勝見・渡辺雄一郎 著

中川恵一 執筆協力

丸善出版

本体 2500円+税

- 1章 放射線とは? 《放射線入門》
 - 2章 放射線の性質 《放射線物理学 I》
 - 3章 原子力発電で生み出される放射性物質
《原子核物理学・原子力工学》
 - 4章 放射線量の評価 《放射線物理学 II》
 - 5章 放射線の測り方 《放射線計測学》
 - 6章 環境中での放射性物質 《環境放射化学》
 - 7章 放射線の細胞への影響 《放射線生物学》
 - 8章 放射線の人体への影響 《放射線医学》
 - 9章 放射性物質と農業 《植物栄養学・土壤肥料学》
 - 10章 放射線の防護と安全 《放射線防護学》
 - 11章 役に立つ放射線 《放射線の利用・加速器科学》
- Q&A

放射線を理解するには、物理学・化学・生物学・医学・工学など多くの分野の知識が必要です。しかしこれらすべてを網羅することは難しく、系統立てて学べる機会は非常に少ないのが実情です。

本書は東京大学教養学部で行われた講義をもとに、放射線について多角的に学べるよう配慮しています。日常生活や原発事故にかかわる具体的な例を引きながらやさしくていねいに解説しましたので高校生や一般の方にも広く読んでいただきたいと願っています。

<http://radphys4.c.u-tokyo.ac.jp/~torii/lecture/radiolect-kn.html>

2014年度冬学期 主題科目テーマ講義

放射線

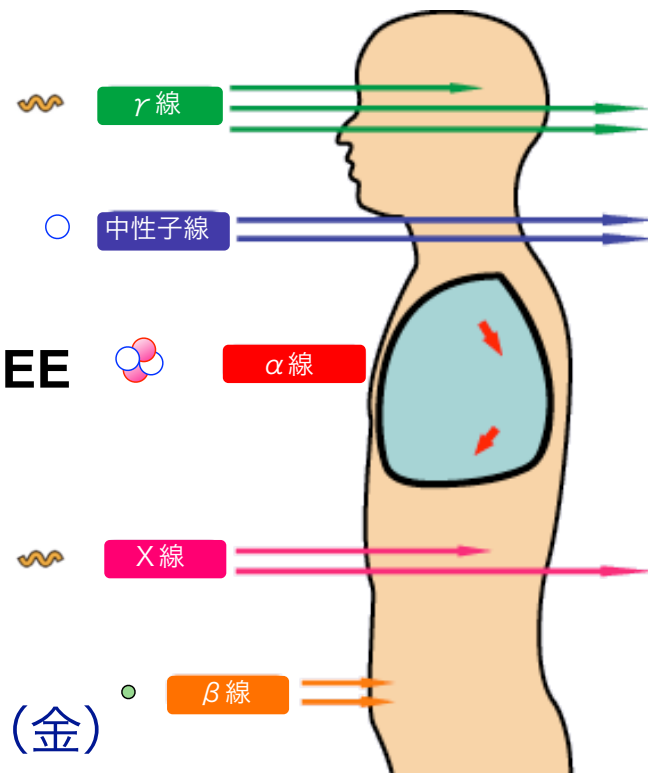
を
科学的に
理解する

金曜 5 限

@ 21 KOMCEE
(West)

K303教室

2014 / 12 / 12 (金)



第9回

環境放射化学

シミュレーションと将来の放射線量

小豆川 勝見

東京大学 教養学部 / 大学院総合文化研究科

放射線を科学的に理解する

- 10/10 放射線入門 【鳥居】
- 10/17 放射線物理学 【鳥居】
- 10/24 放射線計測学 【小豆川】
- 10/31 放射線物理・化学 【鳥居】
- 11/ 7 放射線生物学 【渡邊】
- 11/14 放射線影響の疫学 【小笹】
- 11/28 原子核物理学・原子力工学 【鳥居】
- 12/ 5 環境放射化学 【小豆川】
- 12/12 環境放射化学 【小豆川】
- 12/19 被曝調査・医療支援 【坪倉】
- 1/ 9 放射性物質汚染と農業 【藤原】
- 1/23 放射線の利用 【渡邊】
- 1/27 加速器科学・放射線防護学 【鳥居】

鳥居 寛之

小豆川 勝見

渡邊 雄一郎

《教養学部》

坪倉 正治 《医科学研究所》

小笹 晃太郎 《放射線影響研究所 (広島)》

藤原 徹 《農学部応用生命化学》

ゲスト講師

放射線を科学的に理解する (化学分野3回目)

小豆川(しょうずがわ)勝見

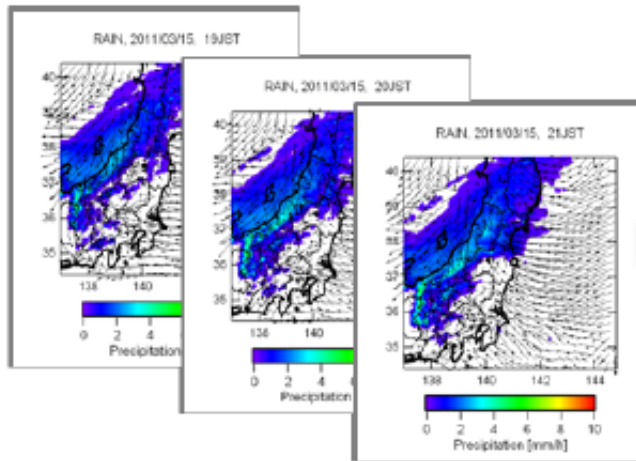
はじめに

- ▶ 本日は化学最終回「今後の放射線量」
 - 化学1回目は「放射線の測定法」、化学2回目では「実際の計測値、濃縮と拡散」。今日は「シミュレーションと将来の放射線量」ということにテーマをおく。
- ▶ 放射性核種は今後どのように環境中で移動するのか
 - 環境中では「核種」ではなく「元素」として振る舞う。
 - 放射性セシウムと放射性ストロンチウムはどう違う？
 - マクロな視点(航空機モニタリング)とミクロな視点(生活目線)の違い
- ▶ 無用な被曝を避けるために...「除染」をやろう
 - 放射性セシウムの特性を理解すれば、自然現象に勝てるか？
 - 効率的な除染方法はどうやる？

大気シミュレーションモデル

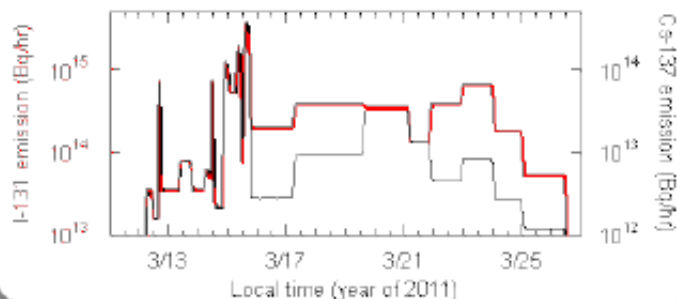
気象モデル(WRF)

3次元の風、降水量などの
気象要素を時間ごとに計算



発生源データ(JAEA)

I-131, Cs-137放出量(時間値)



化学輸送モデル(CMAQ)

3次元の放射性物質濃度を時間ごとに計算

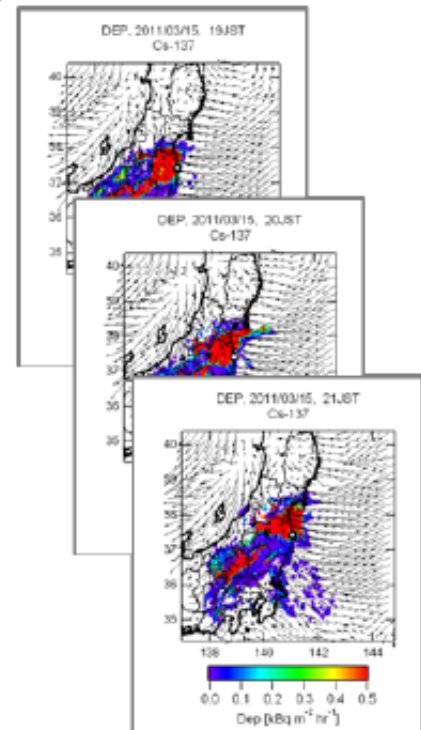
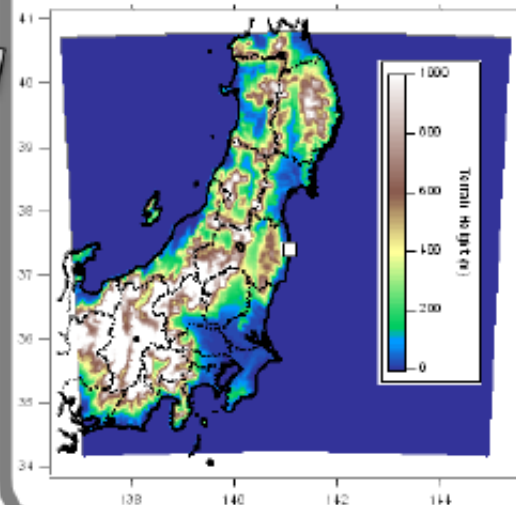
計算するプロセス

- ✓ 放出
- ✓ 輸送(移流/拡散)
- ✓ 沈着(乾性/湿性)
- ✓ 放射性壊変

計算結果

I-131, Cs-137の
濃度・沈着量

計算領域



ホットスポットの生成メカニズム

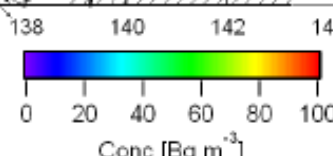
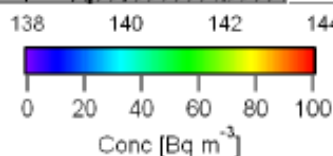
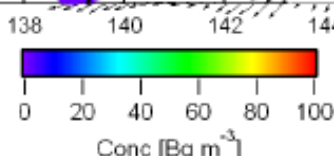
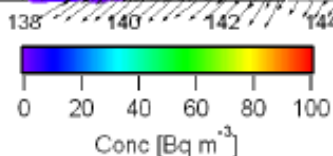
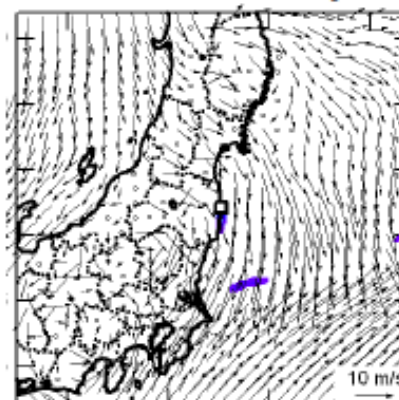
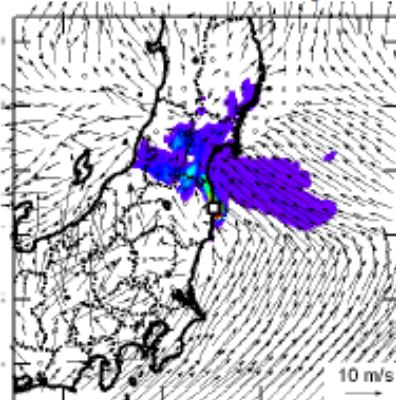
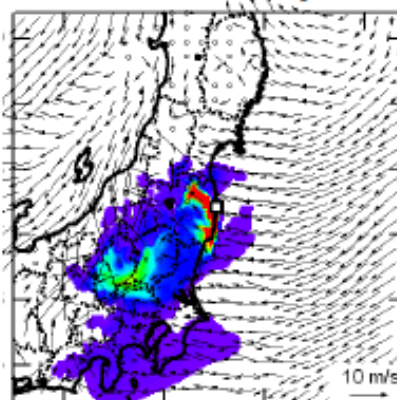
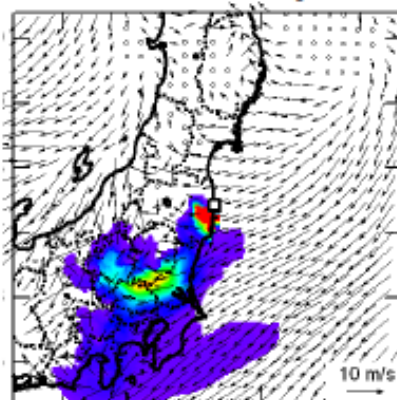
3/15の15時

3/15の19時

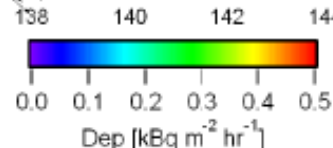
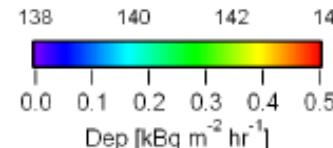
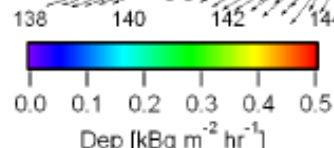
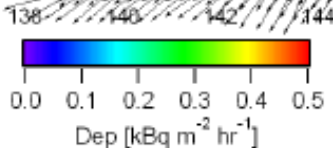
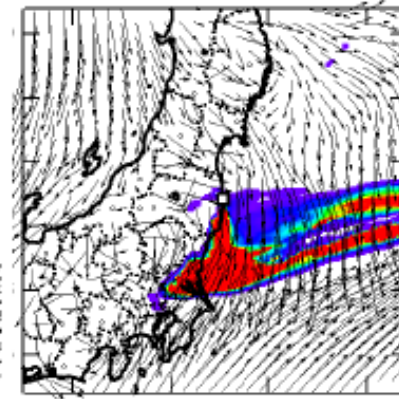
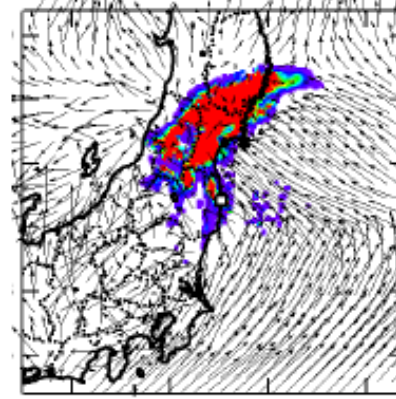
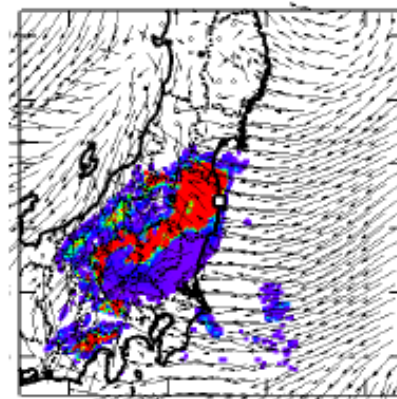
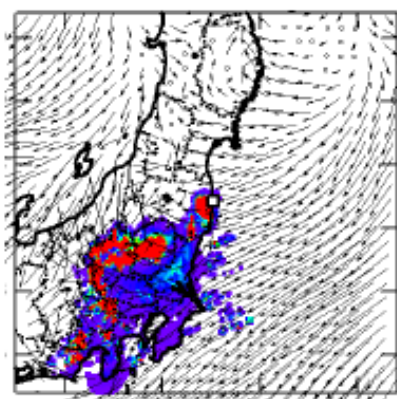
3/20の18時

3/21の8時

大気濃度



降下量



関東への最初の影響

福島 of 深刻な汚染、
北関東の汚染

宮城県北部の稲葉汚染

水道水汚染、千葉北西部
のホットスポット

放出量の比較

	方法	期間	^{131}I (PBq)	^{137}Cs (PBq)	^{133}Xe (EBq)
Chino et al. (JNST, 2011)	逆推計 (福島周辺)	3/12-4/6	150	13	---
JAEA (August, 2011)	逆推計 (福島周辺)	3/11-4/6	120	7	---
原子力安全・ 保安院 (June, 2011)	炉内解析	3/11-3/15	160	15	11
JAEA (Dec., 2011)	逆推計 (福島周辺)	3/11-4/30	124	9	---
Stohl et al. (ACPD, 2011) (ACP, 2012)	逆推計 (グローバル)	3/12-4/19	---	36 37	17 15

Cs-137の収支 (PBq)

期間		放出量	陸上への 沈着量 ¹⁾	海上への 沈着量 ¹⁾	領域外へ の流出
3/11- 3/30	JAEA (August)	6.5	1.9 (28.9%) ²⁾	0.9 (13.5%)	3.7 (57.6%)
	JAEA (Dec.)	6.7	1.9 (28.6%)	0.9 (13.0%)	3.9 (58.4%)
	Stohl et al.	34.5	4.4 (12.9%)	4.0 (11.6%)	26.1 (75.5%)
3/11- 4/30	JAEA (Dec.)	8.8	2.2 (24.8%)	2.2 (24.7%)	4.4 (50.5%)
	Stohl et al.	35.8	4.5 (12.6%)	4.3 (12.0%)	27.0 (75.4%)

1) 沈着量はモデル領域内の値、2) %は放出量に対する割合、

事故直後のモニタリングポストの変動(2011年3月11-12日)

			4.9km from plant (West-southwest)	1.6km from plant (South-southwest)	2.8km from plant (North-northwest)
日	時刻	主要事象			
			0.04 $\mu\text{Sv/h}$	0.04 $\mu\text{Sv/h}$	0.04 $\mu\text{Sv/h}$
	11. Mar 2:00 pm	(before Earthquake)			
	14:46	(地震発生)			
	15:35	津波第2波 (約14m) 福島第一原子力発電所に到達			
			0.04 $\mu\text{Sv/h}$	0.04 $\mu\text{Sv/h}$	0.04 $\mu\text{Sv/h}$
	12. Mar 4:30 am				
			0.04 $\mu\text{Sv/h}$	0.38 $\mu\text{Sv/h}$	7.15 $\mu\text{Sv/h}$
	12. Mar 5:30 am				

1号機爆発前に北西方向に漏れている？

事故直後のモニタリングポストの変動(2011年3月12-13日)

4.9km from plant
(West-southwest)

1.6km from plant
(South-southwest)

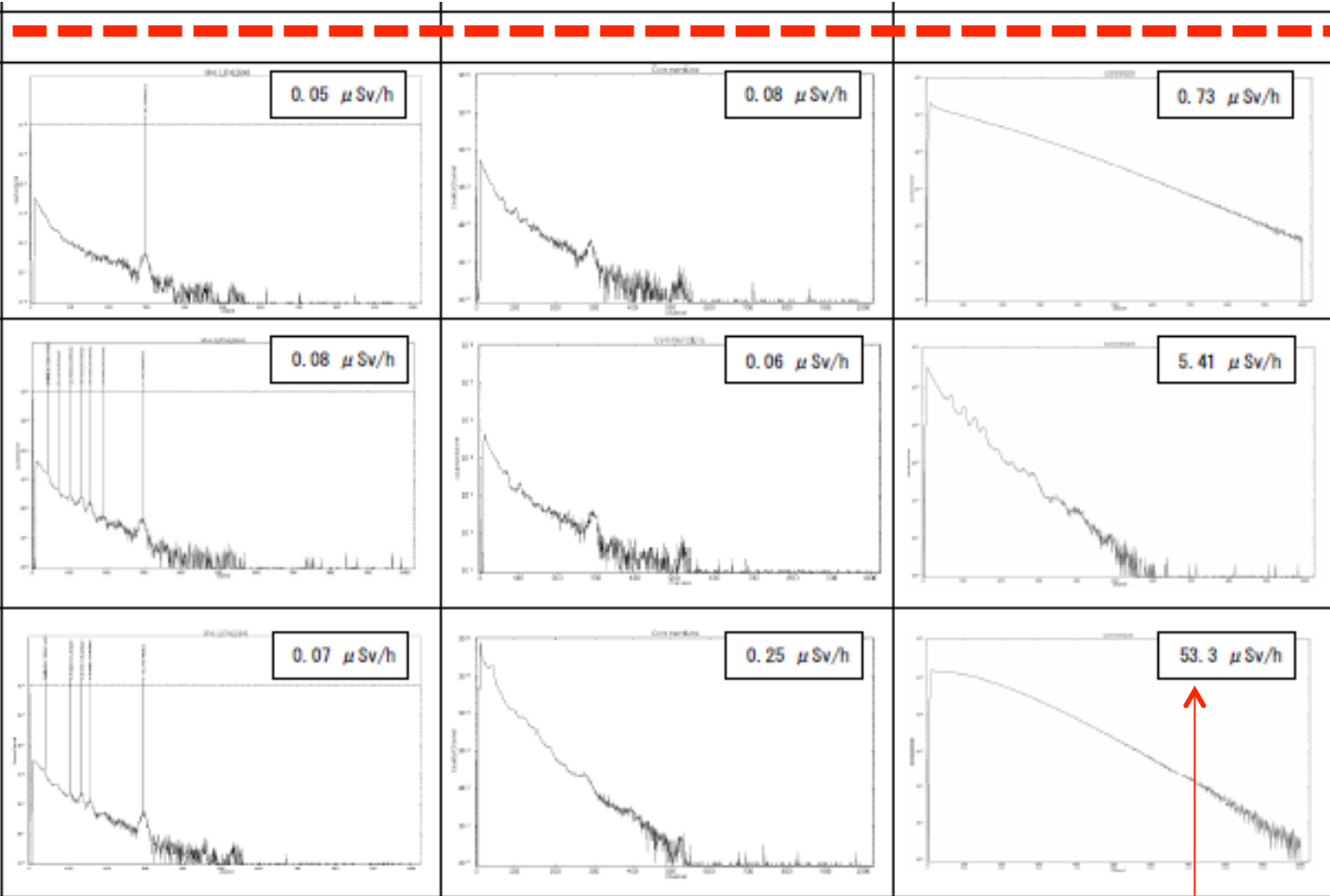
2.8km from plant
(North-northwest)

12. Mar 3:36 pm
(hydrogen explosion
at No.1 reactor)

15:40
が上昇、個別のピークが判別
不可能、18:20まで継続

13日 0:00
(各地点で複数ピーク確認)

13. Mar 8:20 am



53.3uSv/h

事故直後のモニタリングポストの変動(2011年3月13-15日)

4.9km from plant
(West-southwest)

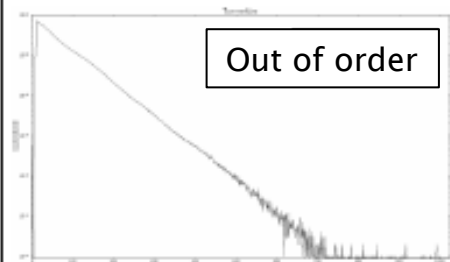
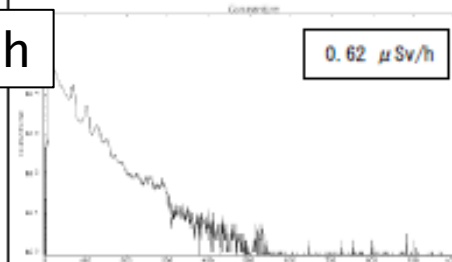
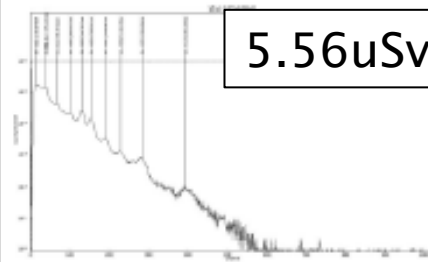
1.6km from plant
(South-southwest)

2.8km from plant
(North-northwest)

13. Mar 8:41 am
(vent at No.3)

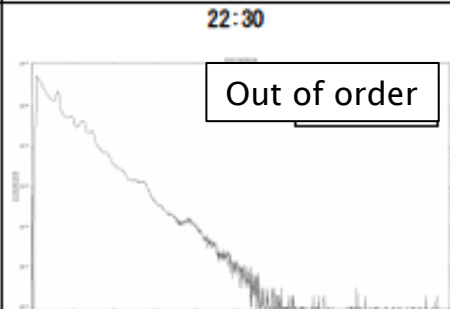
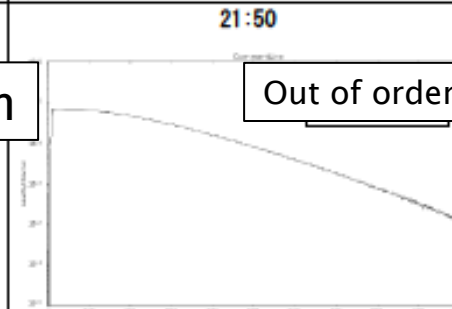
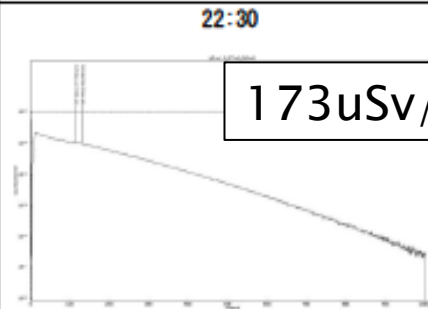
13. Mar 11:00 am
(vent at no.2)

17:30 (大熊町大野でベースラインが上昇)



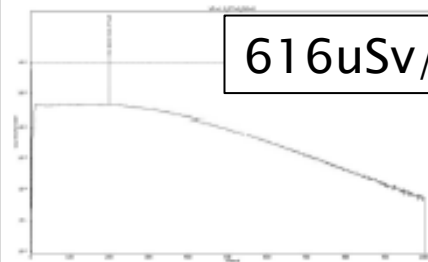
14. Mar. 11:00 am
Hydrogen explosion
at No.3

21:50 (大熊町大野と夫沢でベースラインがさらに上昇、個別のピークが判別不可能)
22:30



15. Mar. 04:00 am
Hydrogen(?) explosion
at No.4 and No.2

10:30 (大熊町大野で低エネルギー領域が飽和(測定可能上限を超過))



フォールアウト形式には2種類「乾性沈着」と「湿性沈着」

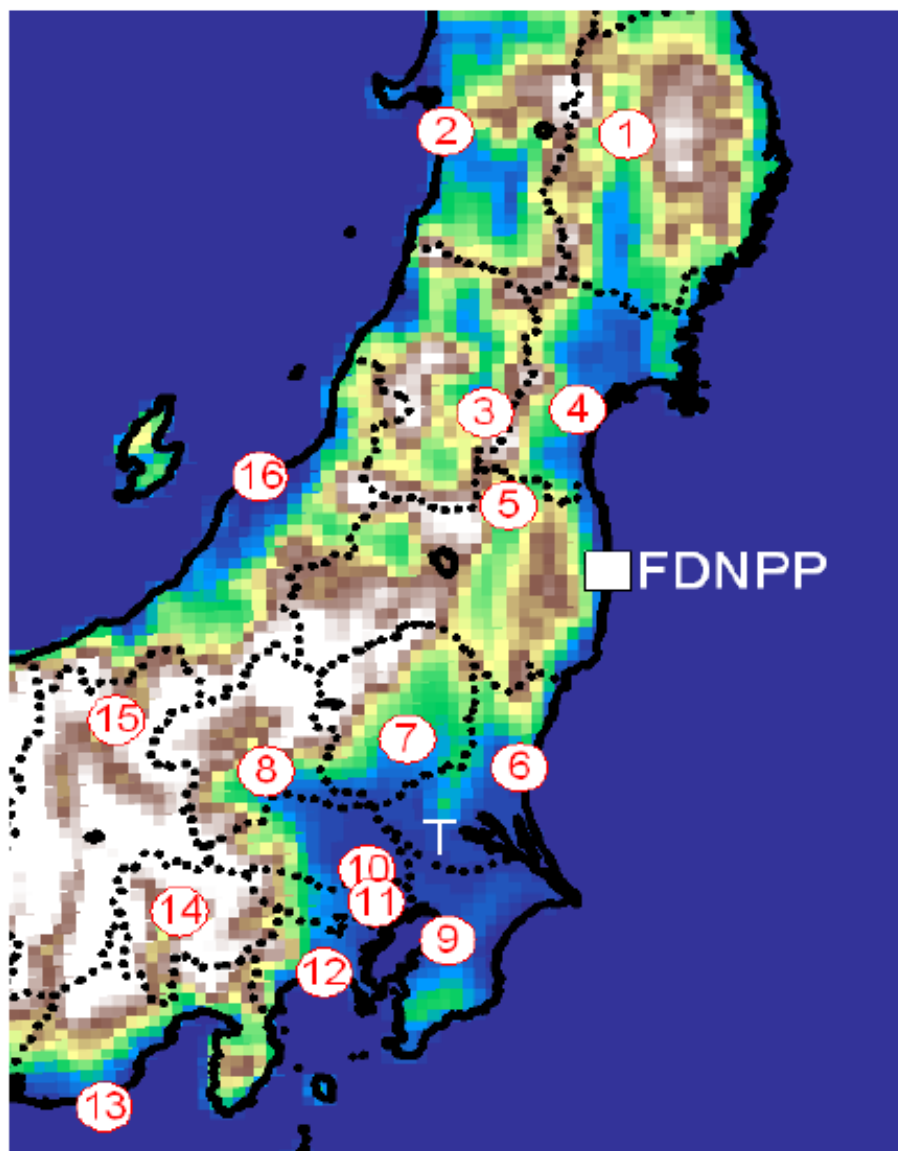
▶ 乾性沈着

- ガス状または粒子状の大気汚染物質(放射性物質を含む)が、雨や雪などに取り込まれる形ではなく、大気中から直接、地表や建物、湖沼・河川などに沈着すること。

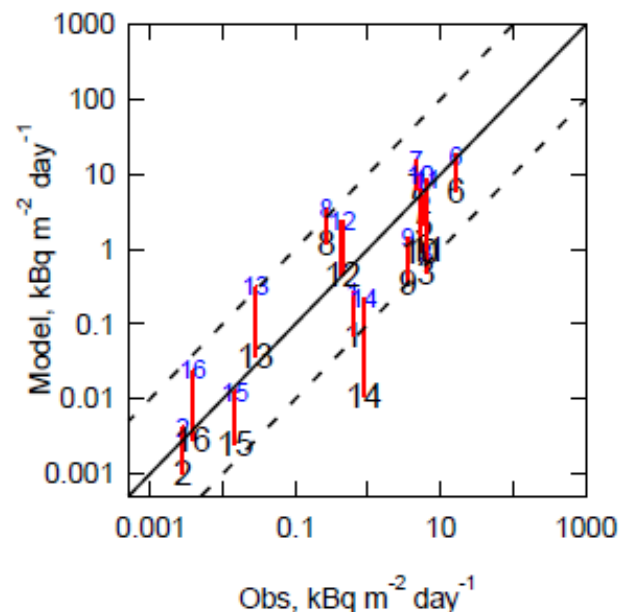
▶ 湿性沈着

- 雨、霧や雪など大気中にさまざまな形で存在する凝結態の水分を媒体にして、大気汚染物質等が地表に降下して沈着すること。
- 降水の生成過程で取り込まれるものをレインアウト、落下の過程で取り込まれるものをウォッシュアウトと呼ぶ。

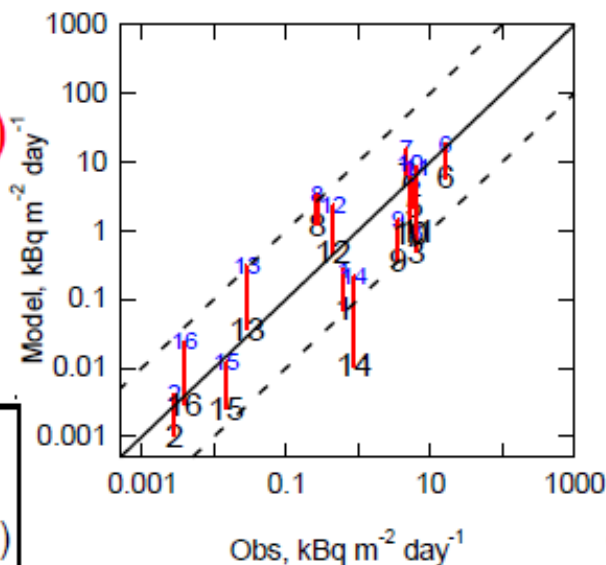
観測された降水量との比較(I-131)



JAEA
(8/18)



JAEA
(12/15)

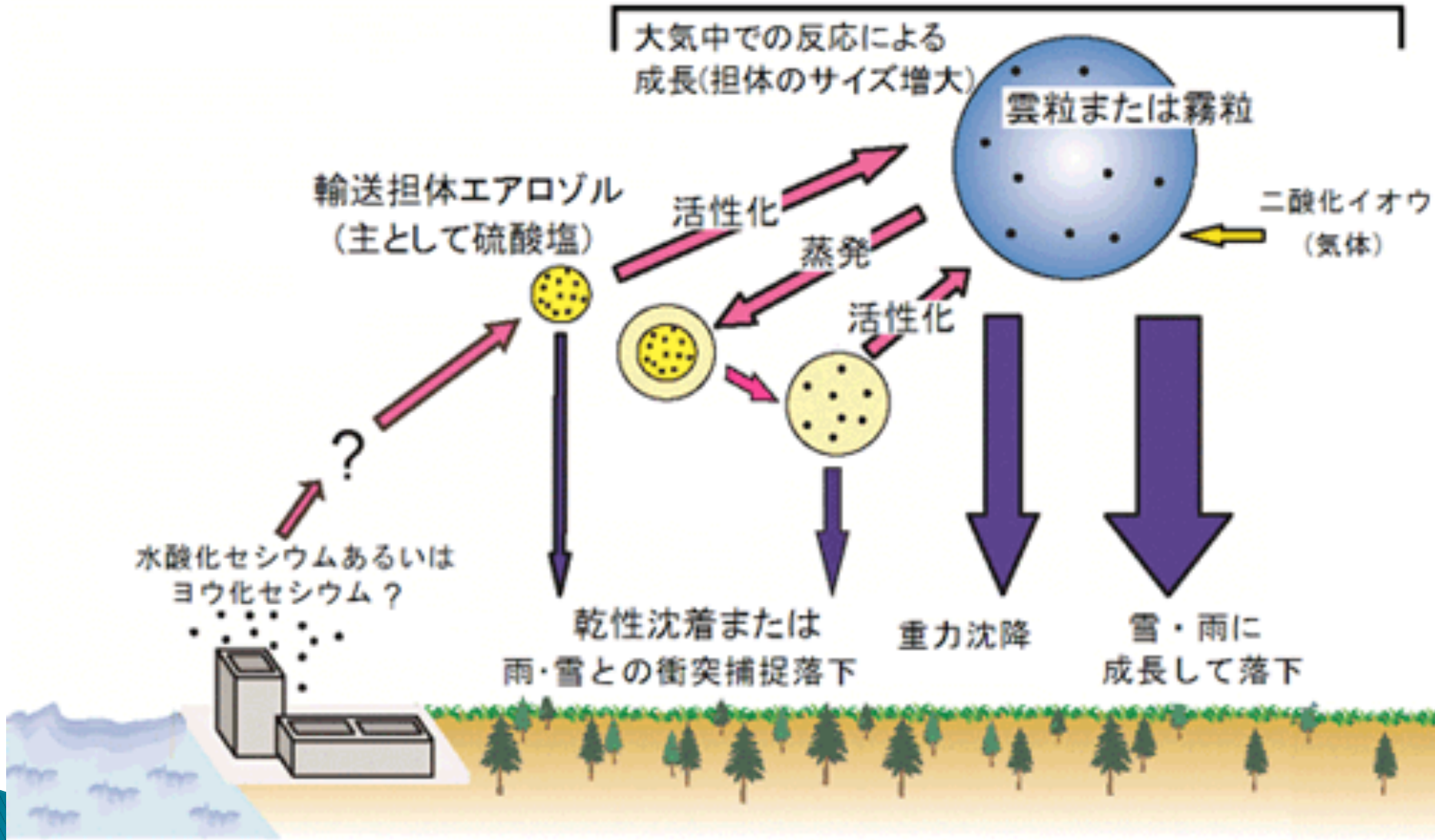


T Wet only
T Total
(— total-wet)

(余談) 試料採取って本当に大変！



汚染源から沈着までの過程



現場で比較すると...?

- ▶ 圧倒的に存在していた¹³¹Iが既に崩壊済み。

解析で対象とした期間での大気中への放射性物質の放出量の試算値 (Bq)

核種	1号機	2号機	3号機	放出量合計
Xe-133	3.4×10^{18}	3.5×10^{18}	4.4×10^{18}	1.1×10^{19}
Cs-134	7.1×10^{14}	1.6×10^{16}	8.2×10^{14}	1.8×10^{16}
Cs-137	5.9×10^{14}	1.4×10^{16}	7.1×10^{14}	1.5×10^{16}
Sr-89	8.2×10^{13}	6.8×10^{14}	1.2×10^{15}	2.0×10^{15}
Sr-90	6.1×10^{12}	4.8×10^{13}	8.5×10^{13}	1.4×10^{14}
Ba-140	1.3×10^{14}	1.1×10^{15}	1.9×10^{15}	3.2×10^{15}
Te-127m	2.5×10^{14}	7.7×10^{14}	6.9×10^{13}	1.1×10^{15}
Te-129m	7.2×10^{14}	2.4×10^{15}	2.1×10^{14}	3.3×10^{15}
Te-131m	<u>2.2×10^{15}</u>	<u>2.3×10^{15}</u>	<u>4.5×10^{14}</u>	<u>5.0×10^{15}</u>
Te-132	<u>2.5×10^{16}</u>	<u>5.7×10^{16}</u>	<u>6.4×10^{15}</u>	<u>8.8×10^{16}</u>
Cm-242	1.1×10^{10}	7.7×10^{10}	1.4×10^{10}	1.0×10^{11}
I-131	1.2×10^{16}	1.4×10^{17}	7.0×10^{15}	1.6×10^{17}



福島第一原子力発電所まで4.1 km(大熊町熊川地区)



左の画像は2011年4月に撮影
 ^{131}I が大量に存在している時期

では、2011年12月の値は？
 ^{131}I は完全に崩壊済み

30 $\mu\text{Sv/h}$

大熊町災害対策本部

福島第一原子力発電所まで1.0km(大熊町夫沢地区)



左の画像は2011年4月に撮影
 ^{131}I が大量に存在している時期

では、2011年12月の値は？
 ^{131}I は完全に崩壊済み

50 $\mu\text{Sv/h}$

大熊町災害対策本部(月)

事故9ヶ月後の時点で放出されていた放射性物質(1号機)

評価方法 1号機 (その2)

①原子炉上部

カバーが設置され原子炉上部でのダスト測定が出来ないため、前回評価時(10/17)の数値を使用する。 **0.02億Bq/時**

②機器ハッチ内(11/4測定値)

実績よりオペフロ面ダスト濃度は機器ハッチ内ダスト濃度の約1/2

$$\begin{aligned} \text{オペフロ面ダスト濃度(Bq/cm}^3\text{)} &= \text{機器ハッチ内ダスト濃度(Bq/cm}^3\text{)} \times 0.5 \\ &= (1.4\text{E-}4 + 2.0\text{E-}4) \times 0.5 = 1.7\text{E-}4 \text{ Bq/cm}^3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{放出量(Bq/s)} &= \text{オペフロ面ダスト濃度(Bq/cm}^3\text{)} \times \text{機器ハッチ風量(m}^3\text{/s)} \times 1\text{E6(cm}^3\text{/m}^3\text{)} \\ &= 1.7\text{E-}4 \times 10.1 \times 1\text{E6} = 1.7\text{E3 Bq/s} = \text{約0.06億Bq/時} \\ &\sim 1.7\text{E-}4 \times 12.5 \times 1\text{E6} = 2.1\text{E3 Bq/s} = \text{約0.08億Bq/時} \end{aligned}$$

③カバー排気設備で除去される量(11/4測定値)

フィルター入口のダスト濃度に風量を乗じ放出量とした。

$$\begin{aligned} \text{排気設備除去量} &= \text{フィルター入口ダスト濃度(Bq/cm}^3\text{)} \times \text{風量(m}^3\text{/s)} \times 1\text{E6(cm}^3\text{/m}^3\text{)} \\ &= (2.5\text{E-}5 + 3.2\text{E-}5) \times 12.4 \times 1\text{E6} = 7.1\text{E2 Bq/s} = \text{約0.03億Bq/時} \end{aligned}$$

上記①+②-③で放出量を評価

$$\text{放出量(億Bq/時)} = 0.02 + (0.06 \sim 0.08) - 0.03 = \text{約0.05} \sim \text{0.07億Bq/時} \quad (\rightarrow 0.1)$$

1号機原子炉建屋上部における空气中放射性物質の核種分析結果(参考)

採取場所	1号機原子炉建屋上部① (機器ハッチ開口部4階付)		1号機原子炉建屋上部② (原子炉隔壁大気入口)		②核種別指示濃度限度 (Bq/m ³) (95%確率の年間 作業従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)	
	①核種濃度 (Bq/m ³)	倍率 (1/2)	①核種濃度 (Bq/m ³)	倍率 (1/2)	①核種濃度 (Bq/m ³)	倍率 (1/2)
採取日時時刻	平成23年11月4日 13時05分～14時05分		平成23年11月4日 13時05分～14時05分			
検出核種 (半減期)						
I-131 (8日)	ND	-	ND	-		1E-03
Ce-134 (2年)	1.4E-04	0.07	ND	-		2E-03
Ce-137 (30年)	2.0E-04	0.07	1.8E-05	0.01		3E-03

採取場所	1号機原子炉建屋上部③ (カバー排気系フィルター入口)		1号機原子炉建屋上部④ (カバー排気系フィルター出口)		②核種別指示濃度限度 (Bq/m ³) (95%確率の年間 作業従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)	
	①核種濃度 (Bq/m ³)	倍率 (1/2)	①核種濃度 (Bq/m ³)	倍率 (1/2)	①核種濃度 (Bq/m ³)	倍率 (1/2)
採取日時時刻	平成23年11月4日 09時08分～10時08分		平成23年11月4日 09時08分～09時56分			
検出核種 (半減期)						
I-131 (8日)	ND	-	ND	-		1E-03
Ce-134 (2年)	2.5E-05	0.01	ND	-		2E-03
Ce-137 (30年)	3.2E-05	0.01	ND	-		3E-03

事故9ヶ月後の時点で放出されていた放射性物質(2号機)

評価方法 2号機 (その2)

①ブローアウトパネル部での測定 (11/1測定値)

$$\begin{aligned} \text{放出量(Bq/s)} &= \text{ダスト濃度(Bq/cm}^3\text{)} \times \text{ブローアウトパネル部風量(m}^3\text{/s)} \times 1\text{E6(cm}^3\text{/m}^3\text{)} \\ &= (8.4\text{E-6} + 7.3\text{E-6}) \times 26.6 \times 1\text{E6} = 4.2\text{E2 Bq/s} = \text{約0.015億Bq/時} \\ &\sim (1.8\text{E-5} + 1.9\text{E-5}) \times 30.2 \times 1\text{E6} = 1.1\text{E3 Bq/s} = \text{約0.04億Bq/時 (}\rightarrow\text{0.1)} \end{aligned}$$

格納容器ガス管理システム出口での測定 (11/2測定値)

$$\begin{aligned} \text{放出量(Bq/s)} &= \text{ダスト濃度(Bq/cm}^3\text{)} \\ &\quad \times \text{システム流量(m}^3\text{/s)} \times 1\text{E6(cm}^3\text{/m}^3\text{)} \\ &= (2.8\text{E-5} + 4.3\text{E-5}) \times 0.004 \times 1\text{E6} = 0.28 \text{ Bq/s} = \text{約0.00001億Bq/時} \end{aligned}$$

希ガス (11/2測定値)

$$\begin{aligned} \text{放出量(Bq/s)} &= \text{希ガス濃度(Kr-85)(Bq/cm}^3\text{)} \times \text{システム流量(m}^3\text{/s)} \times 1\text{E6(cm}^3\text{/m}^3\text{)} \\ &= 9.5\text{E2} \times 0.004 \times 1\text{E6} = 3.8\text{E6 Bq/s} = \text{約137億Bq/時 (}\rightarrow\text{140)} \end{aligned}$$

2号機原子炉建屋上部における空气中放射性物質の核種分析結果(参考)

採取場所	2号機原子炉建屋上部① (ブローアウトパネル中央西向)		2号機原子炉建屋上部② (ブローアウトパネル中央北向)		2号機原子炉建屋上部③ (ブローアウトパネル下部)		②炉規則告示濃度限度 (Bq/cm ³) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
試料採取日時刻	平成23年11月 1日 11時23分～13時23分		平成23年11月 1日 11時23分～13時23分		平成23年11月 1日 11時23分～13時23分		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	1.5E-05	0.01	1.8E-05	0.01	8.4E-06	0.00	2E-03
Cs-137 (約30年)	1.7E-05	0.01	1.9E-05	0.01	7.3E-06	0.00	3E-03

事故9ヶ月後の時点で放出されていた放射性物質(3号機)

評価方法 3号機 (その2)

①原子炉建屋上部 (11/10測定値)

$$\begin{aligned}
 \text{放出量(Bq/s)} &= \text{ダスト濃度 (Bq/cm}^3\text{)} \times \text{推定蒸気発生量(m}^3\text{/s)} \times 1\text{E6(cm}^3\text{/m}^3\text{)} \\
 &= (4.2\text{E-3} + 5.0\text{E-3}) \times 0.58 \times 1\text{E6} \\
 &= 5.3\text{E3 Bq/s} \\
 &= \text{約0.19億Bq/時}
 \end{aligned}$$

②機器ハッチ (11/9測定値)

$$\begin{aligned}
 \text{放出量(Bq/s)} &= \text{ダスト濃度(Bq/cm}^3\text{)} \times \text{機器ハッチ開口部風量(m}^3\text{/s)} \times 1\text{E6(cm}^3\text{/m}^3\text{)} \\
 &= (1.9\text{E-4} + 2.3\text{E-4}) \times (0.31 \times 5.6 \times 5.6) \times 1\text{E6} \\
 &= 4.1\text{E3 Bq/s} \\
 &= \text{約0.15億Bq/時}
 \end{aligned}$$

合計：約0.19億Bq/時 + 約0.15億Bq/時 = 約0.34億Bq/時 (→0.4)

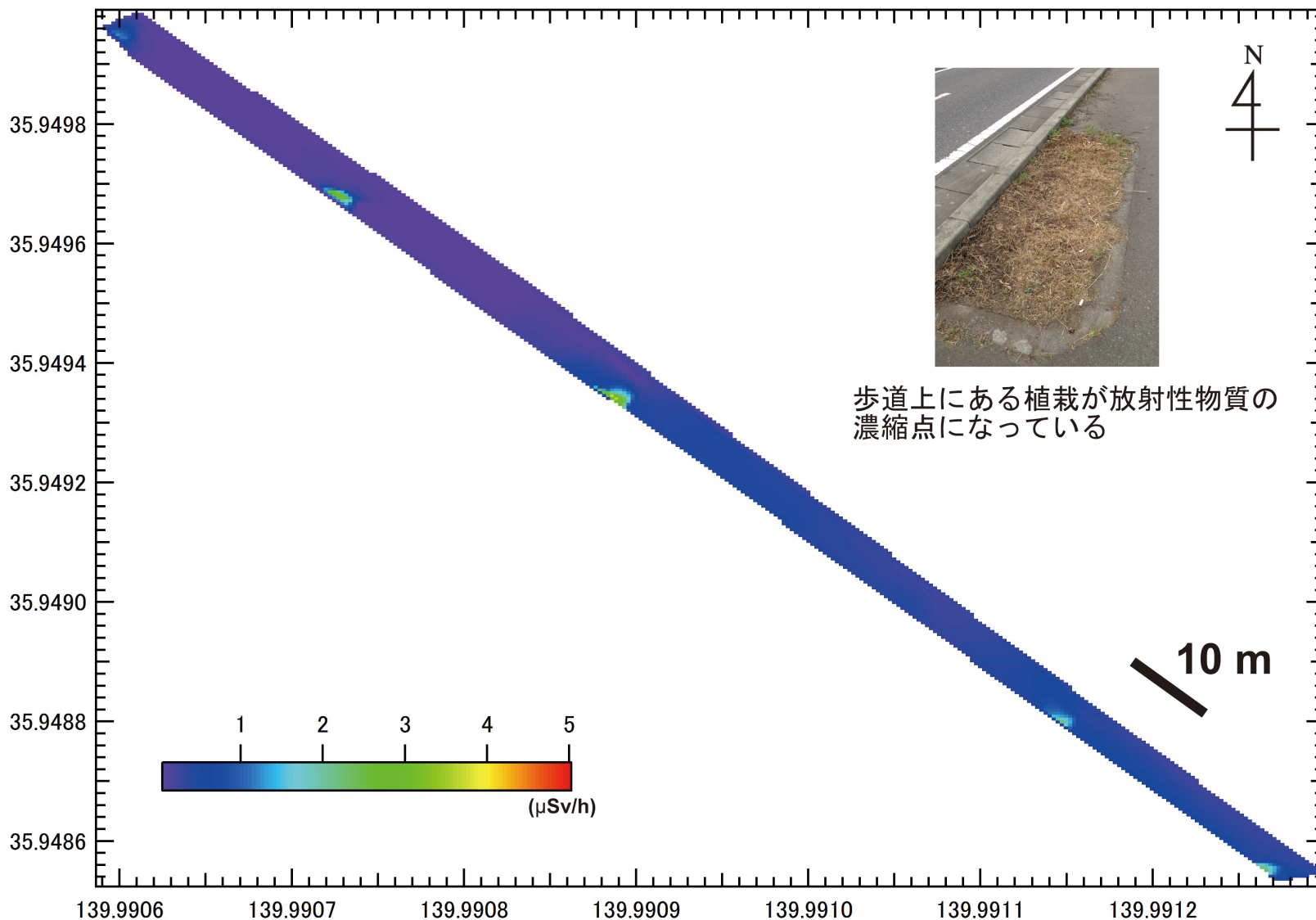
3号機原子炉建屋上部における空气中放射性物質の核種分析結果(参考)

採取所	3号機原子炉建屋上部⑤ (原子炉上北東側(下方向))		3号機原子炉建屋上部⑥ (原子炉上北東側(上方向))		3号機原子炉建屋上部⑦ (原子炉上南東側(下方向))		3号機原子炉建屋上部⑧ (原子炉上南東側(上方向))		②月報(告示濃度限度 Bq/m ³) ※放射能測定値 放射線 測定器での測定する 空気中の濃度限度
	計測日時	平均濃度 (Bq/m ³)	計測日時	平均濃度 (Bq/m ³)	計測日時	平均濃度 (Bq/m ³)	計測日時	平均濃度 (Bq/m ³)	
	平成23年11月0日 12時0分~12時30分		平成23年11月0日 12時0分~12時30分		平成23年11月0日 13時0分~13時30分		平成23年11月0日 13時0分~13時30分		
検出濃度 (半減期)	①基準濃度 Bq/m ³	倍率 (1/2)	①基準濃度 Bq/m ³	倍率 (1/2)	①基準濃度 Bq/m ³	倍率 (1/2)	①基準濃度 Bq/m ³	倍率 (1/2)	
I-131 (8日)	ND	-	ND	-	ND	-	ND	-	1E-03
Ce-134 (92年)	4.2E-03	2.1	1.8E-03	0.90	6.1E-04	0.31	3.2E-04	0.16	2E-03
Ce-137 (930年)	5.0E-03	1.7	2.2E-03	0.77	7.2E-04	0.24	4.2E-04	0.15	2E-03

事故9ヶ月後の1-3号機の放出見積量(放射性セシウムとして)

- ▶ 原子炉建屋上部での測定結果による放出量については、それぞれの数値を切り上げて、以下の通り合計
 - 1,2号機: 約0.1億Bq/時
 - 3号機: 約0.4億Bq/時
 - 合計: 約0.6億Bq/時
- ▶ 現時点におけるセシウムの放出量として、海上では風向の変動により測定値が上下すると考え、原子炉建屋上部での測定結果による評価値を採用
 - 放出量: 約0.6億Bq/時を採用 **事故当時と比較すれば1万分の1以下**
- ▶ 放射性貴ガスは2号炉で140億Bq/時が継続して放出されている
 - 1号炉、3号炉もほぼ同様と推定。

小規模な移動の例 -歩道上の植栽への濃縮-



「点」として汚染から「面」としての汚染へ

- ▶ 都市域の効率的な排水システムが「面」の汚染を生む
 - 親水公園など雨水に親しむことができる環境が結果的に問題に
 - 「除染」はどう対応する？(2回目の講義課題にもちょっと関連)
- ▶ 核種の移動そのものは都市域/農村域、どちらにしても発生する
 - 農村域での核種の移動速度はゆっくり
 - 福島原発周辺のフォールアウト量は異常に高い
 - 何年後にピークを迎える...？

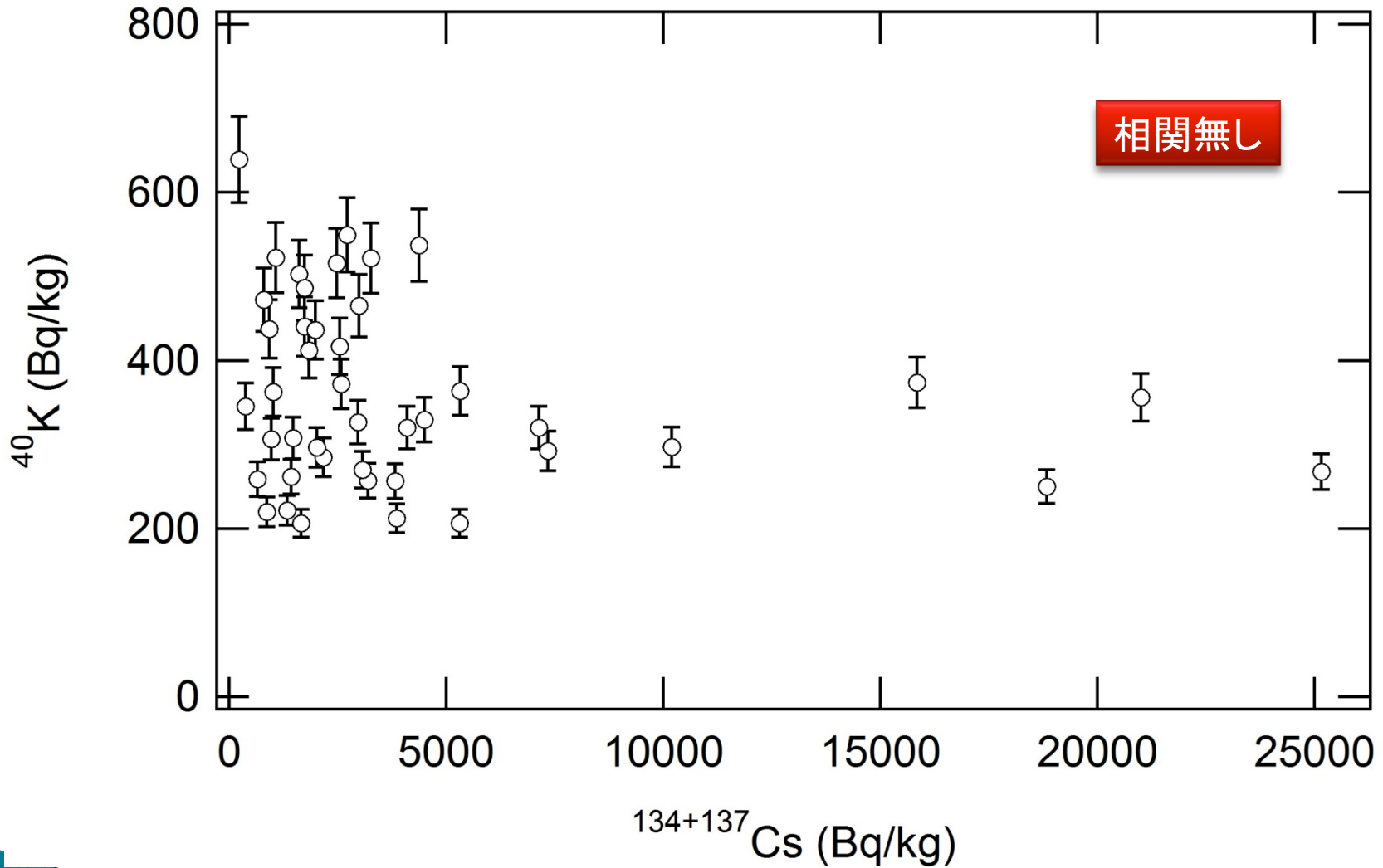
(再掲)濃縮の例:守谷市内の水路における放射性セシウムの濃縮*

堆積物・表層5cm

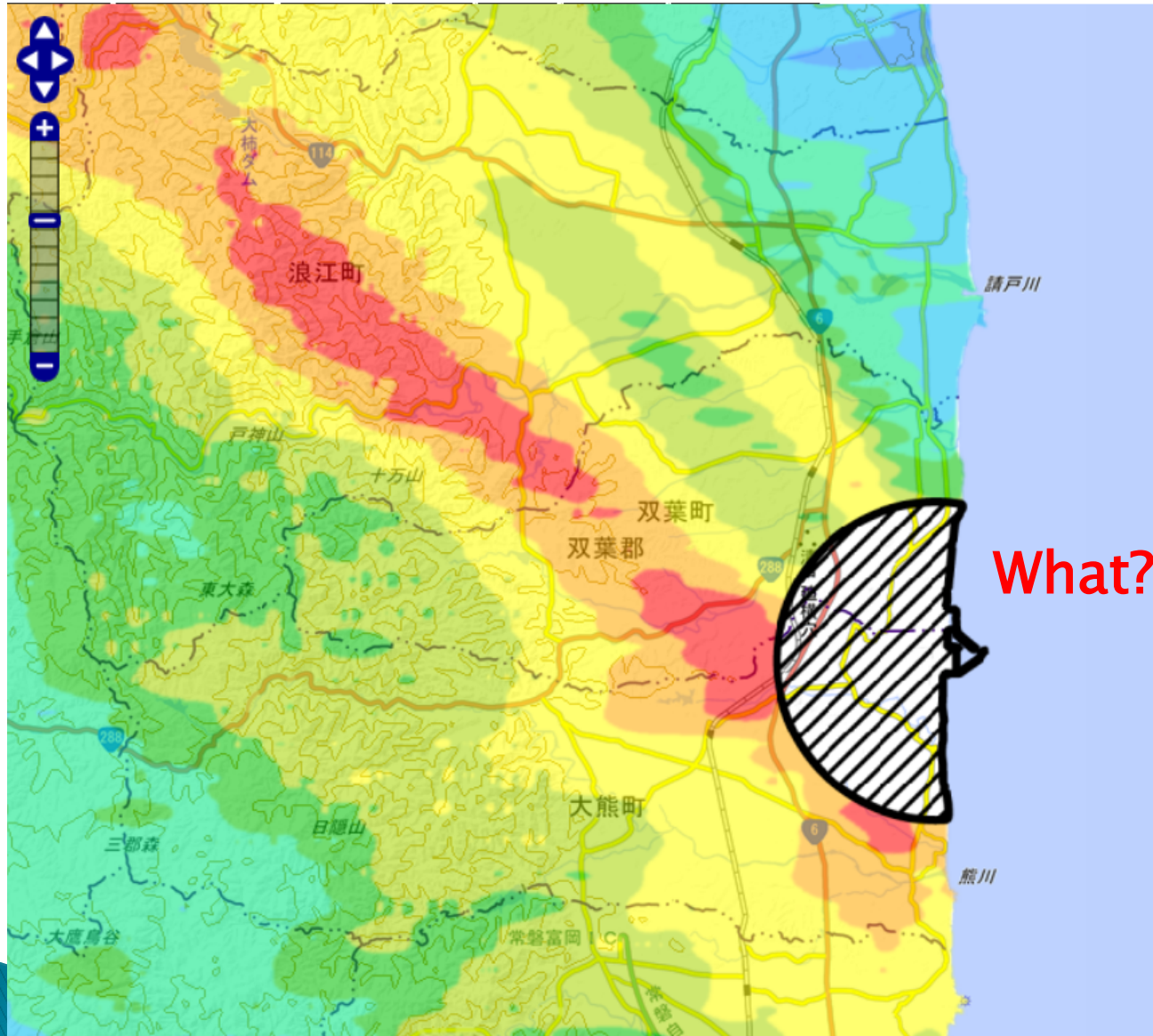
地点	場所	放射性セシウム(Bq/kg)	空間線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)	立ち入り規制
1	民有地	17,200	2.04	無
2	民有地脇水路	43,700	1.49	無
3	水路A1	12,500	1.45	無
4	水路A2	18,700	1.90	無
5	水路B1	9,060	0.60	無
6	水路B2	14,400	1.04	無
7	貯水池脇公園	71,400	2.72	無(一部有り)
8	水路C	14,700	3.25	無
9	水路D	15,200	1.91	有
10	水路E1	30,500	1.75	有
11	水路E2	28,200	3.70	有
12	水路F	13,500	1.30	無

*小豆川勝見, 科学, 82(10), 1059-1062, 岩波書店, 2012

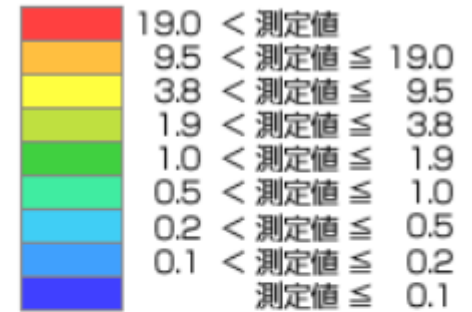
(参考)放射性セシウムと放射性カリウムの相関



最新の航空機モニタリング(2013年)による測定



地表面から1mの高さの
空間線量率($\mu\text{Sv/h}$)



測定結果が
得られていない範囲

※本マップには天然核種による空間線量率が含まれています。

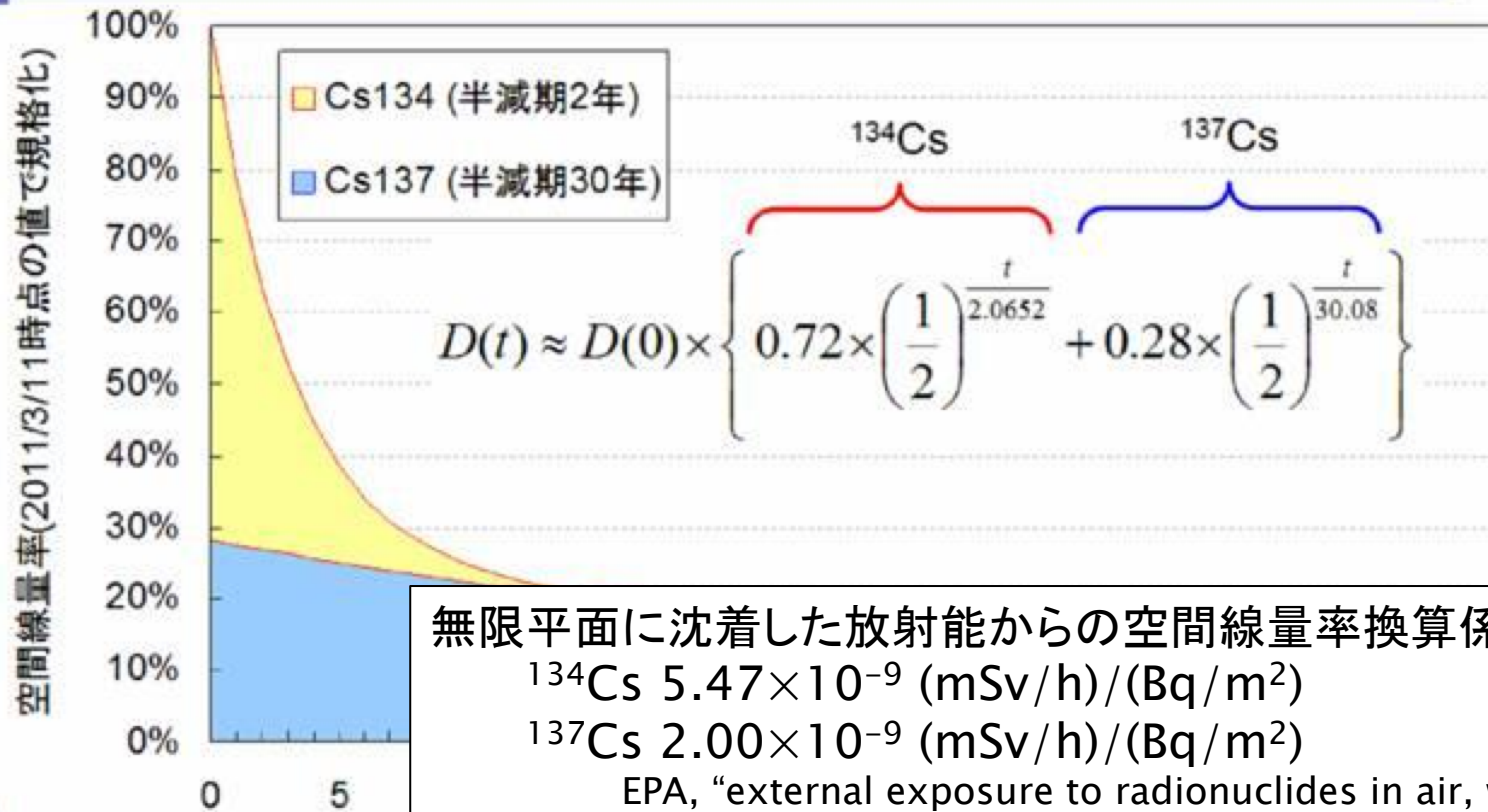
※年間の日常生活に換算した場合
例えば、 $1.0\mu\text{Sv/h}$ は、年間約 5mSv
など。詳細はこちら

※福島第一原子力発電所から80km圏外の測定結果は、事故32か月(平成25年11月19日時点)の値に減衰補正。風雨等の自然環境による放射性物質の移行の影響は考慮していません。

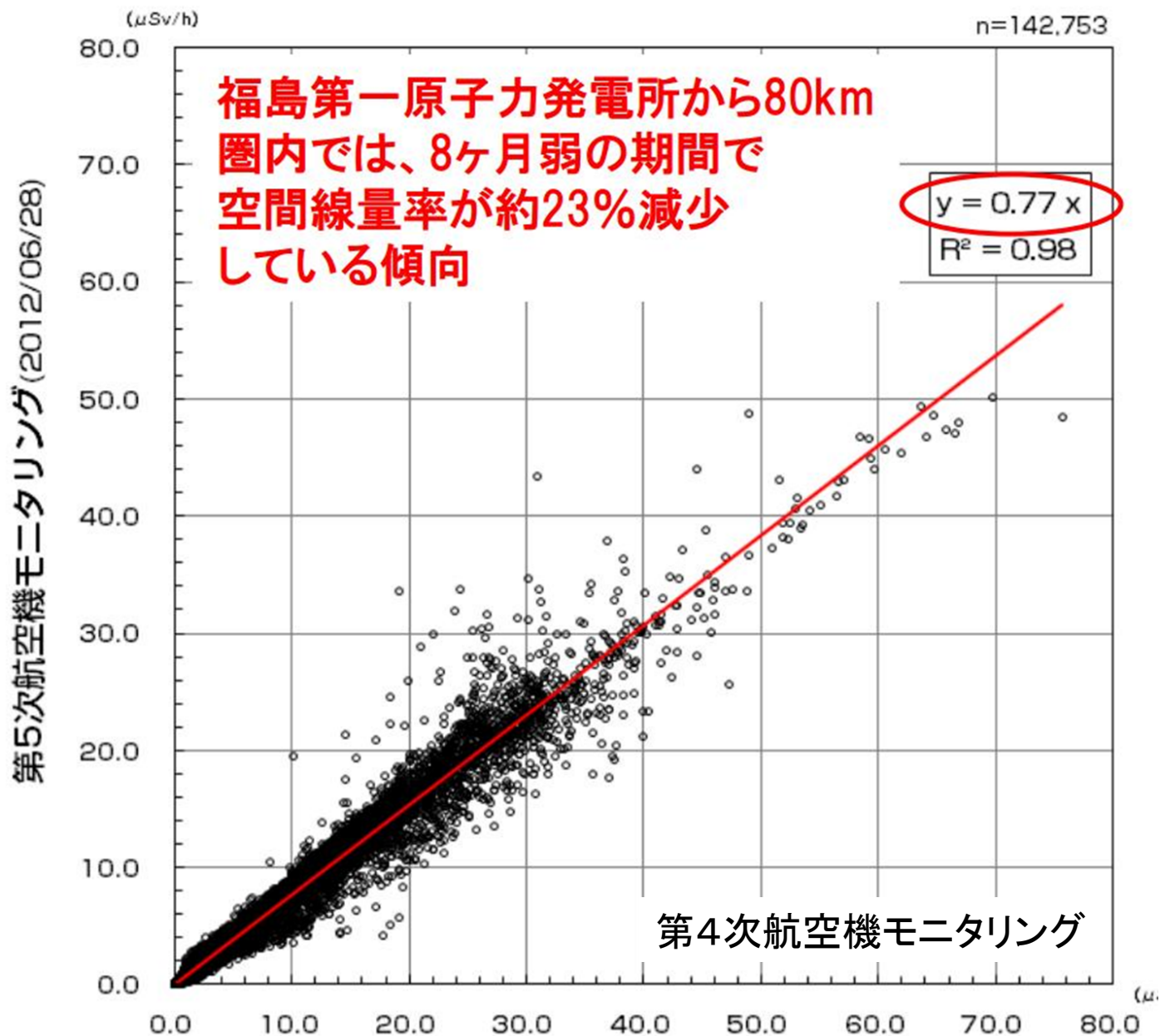
※実線で囲われた白色の領域は積雪のあった箇所を表しています。

What?

^{134}Cs , ^{137}Cs 起因の空間線量率の予測 (風雨など自然要因、除染効果を除く)

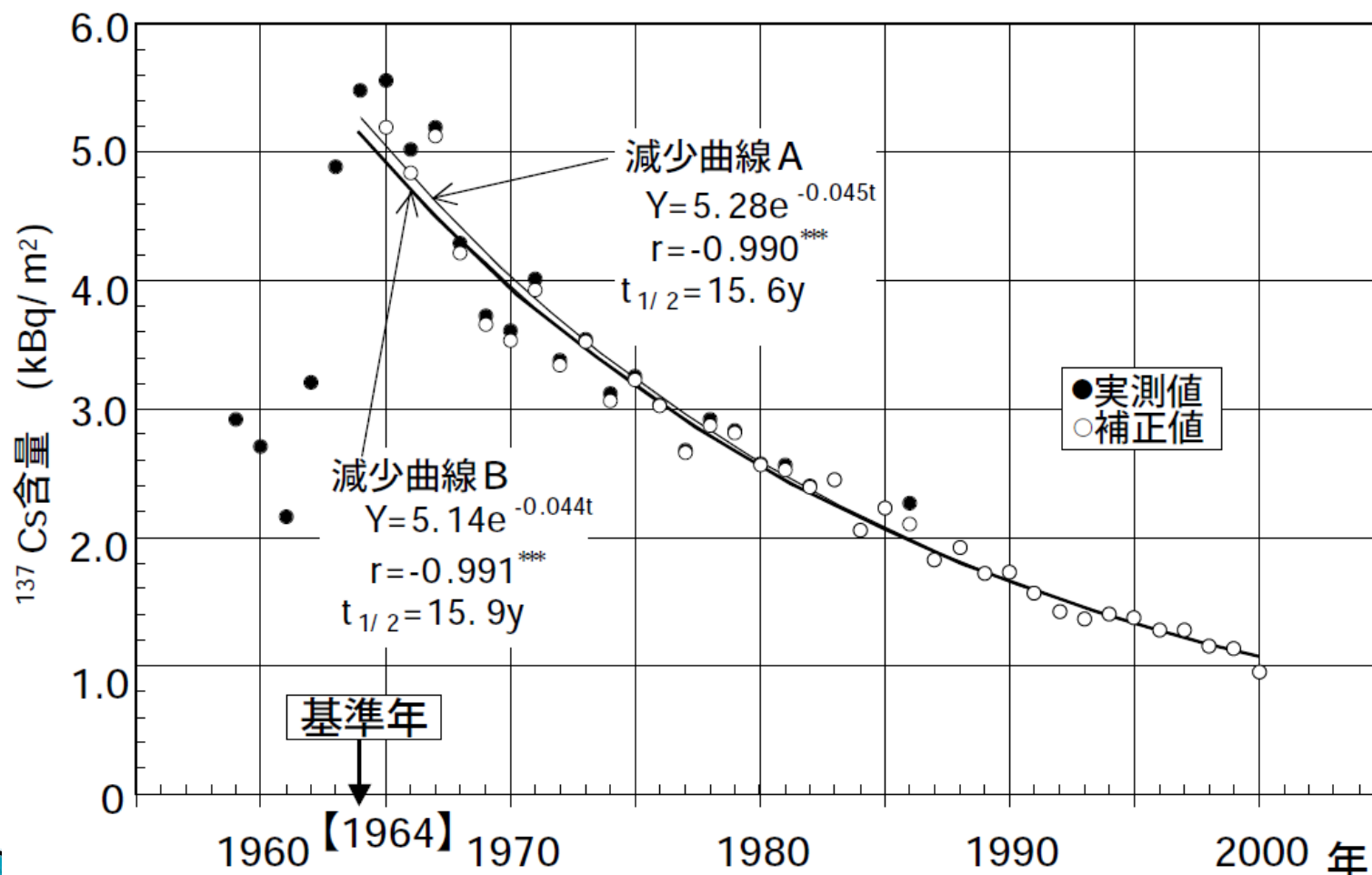


理論値よりも早く空間線量率が減衰



長期的な放射能モニタリングによる移動度の評価

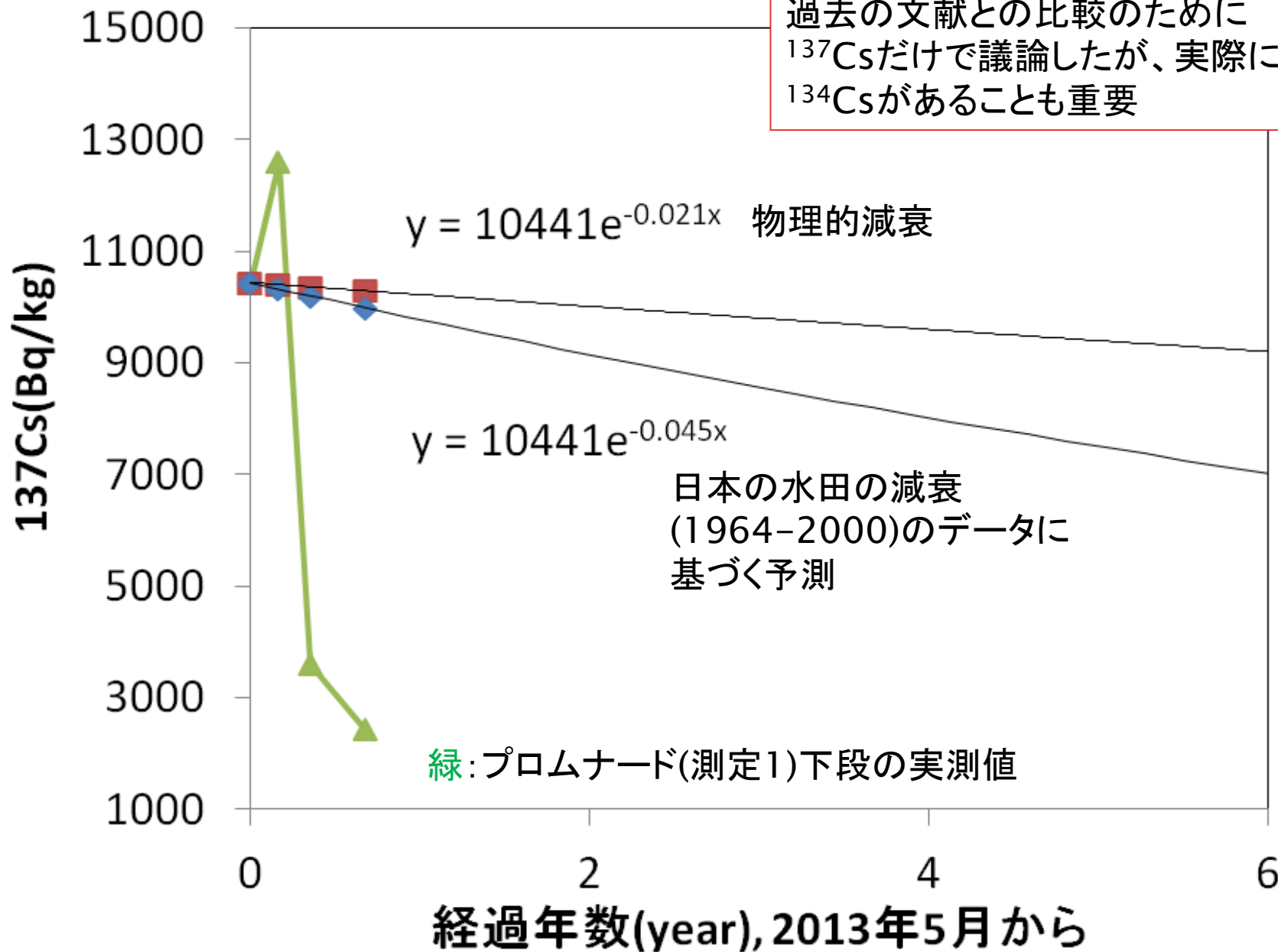
- ▶ 駒村ら、わが国の米、小麦および土壌における ^{90}Sr と ^{137}Cs 濃度の長期モニタリングと変動解析(農環研報告, 24, P1, 2006)



この他にもGolikov et al(1993, Chernobyl papers)がチェルノブイリ事故での経年変化を追っていたり、Gale et al(1964, Nature)が畑に ^{137}Cs 撒いて実験したりと派手にやっている。

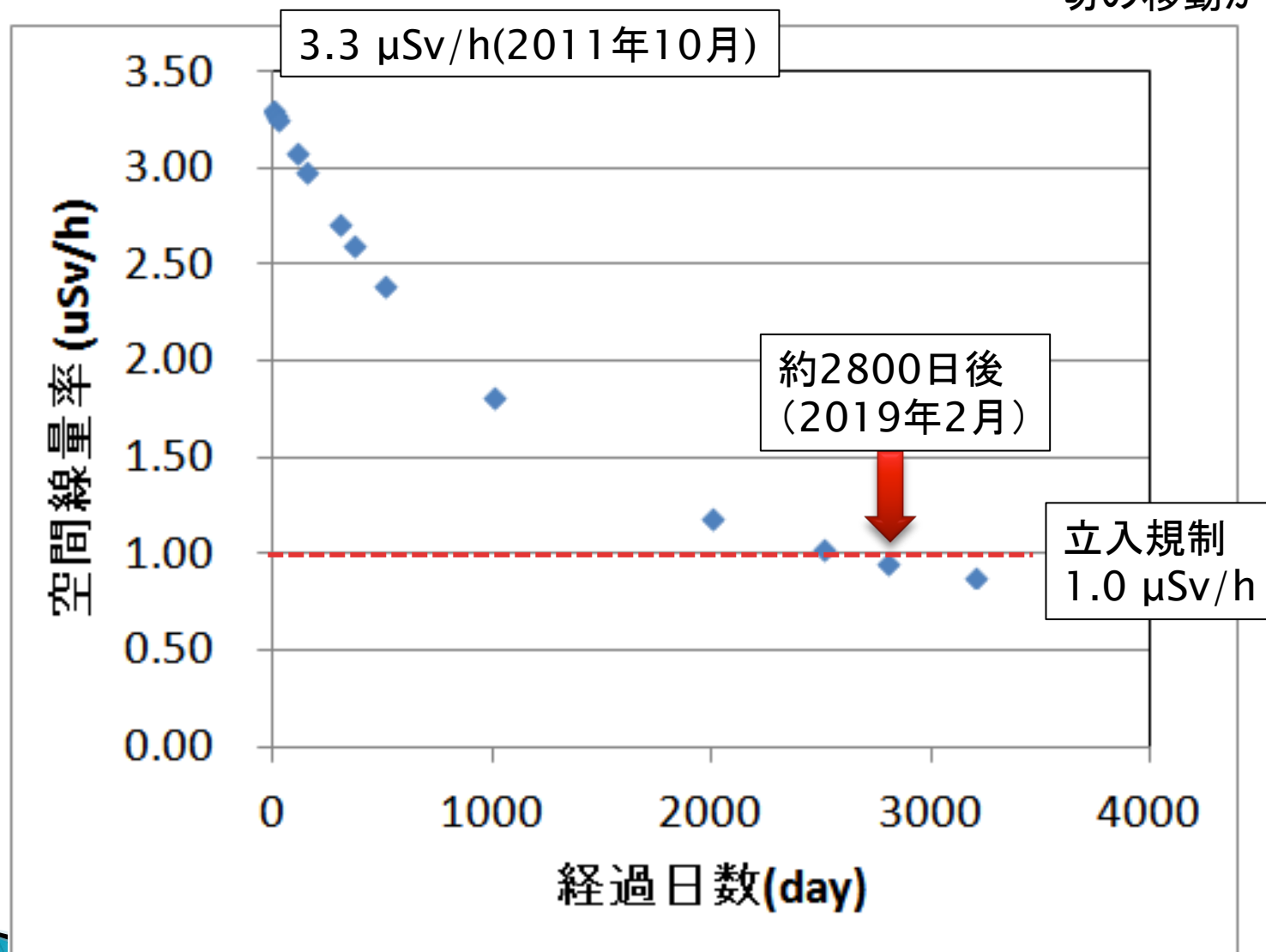
水路内の ^{137}Cs は易動性が高い

過去の文献との比較のために ^{137}Cs だけで議論したが、実際には ^{134}Cs があることも重要



水路内の空間線量率の理論値

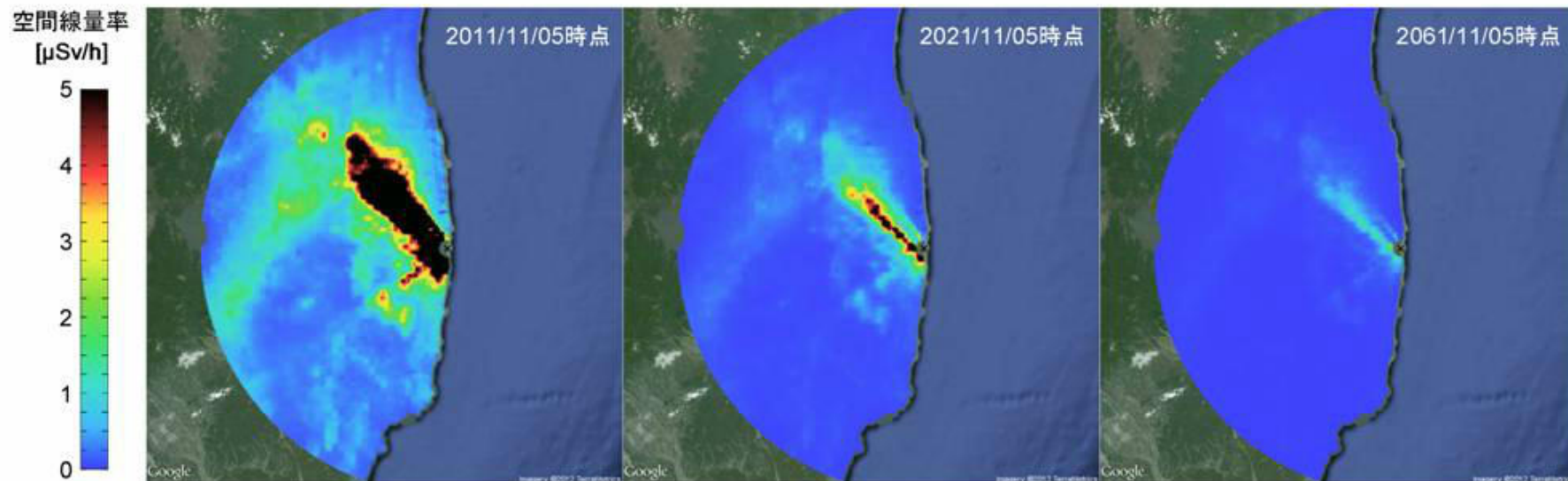
*一切の移動が無い仮定



理論上ではもっと早い段階で基準値をクリアし、実際にもある程度可能のはず(検算中)

将来の空間線量率の予測値

(試算) 2021/11/05, 2061/11/05時点における空間線量率の予測値
(RASCAL 3.0.5^[2]で採用されている自然要因による空間線量率の低減効果を仮に見込んだ場合)



- ✓ 物理的半減期による ^{134}Cs と ^{137}Cs の減少に伴う、空間線量率の減衰効果を考慮
- ✓ 風雨等の自然要因により地表面の放射性核種数密度が減少することに起因した空間線量率の低減効果として、RASCAL3.0.5^[2]で使用されている文献^[3]の式を適用
- ✓ 時間の経過に伴って空間線量率分布の相対的な形は変化しないと近似
 - 実際には放射性核種の移動/拡散により、空間線量率分布の相対的な形は変わり得る

出典:

[1] 放射性物質の分布状況等調査データベース, <http://radb.jaea.go.jp/mapdb/>

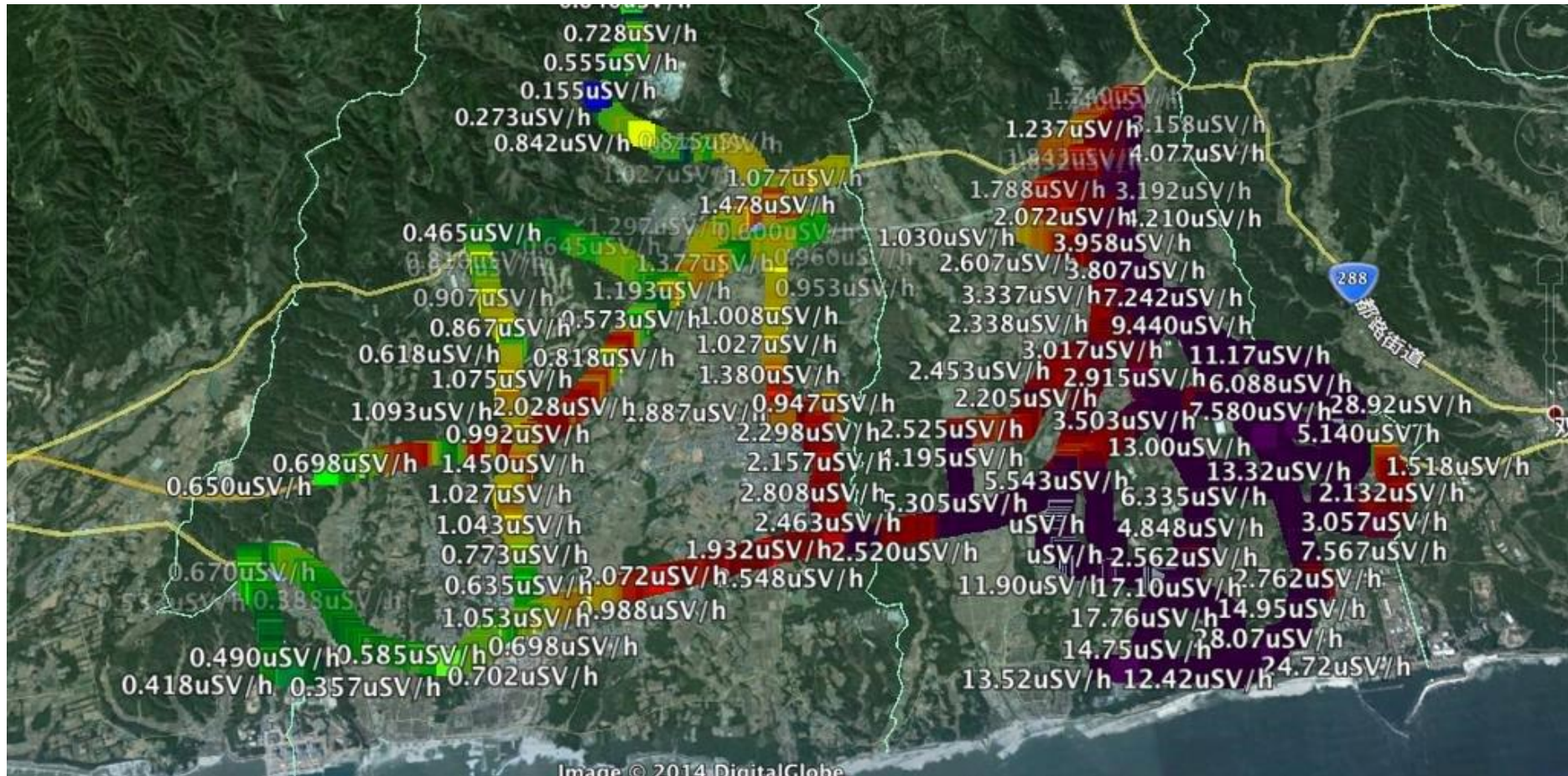
[2] RASCAL 3.0.5: Description of Models and Methods, NUREG-1887, (2007).

[3] L. R. Anspaugh, et al., "Movement of Radionuclides in Terrestrial Ecosystems by Physical Processes," Health Physics, **82**[5], pp. 669-679 (2002).

走行サーベイの重要性



改良したロギングシステムによる大熊町の測定



大熊町に報告済み

国道6号線の両脇が封鎖されているため、町内を移動するには地理を細かく把握しておく必要がある

過去最高の空間線量率(1.06 mSv/h@5 cm)



大熊町長者原地区

国道6号線から50m内側に入った場所

雨水で濃縮したと思われるが、明らかな痕跡がない

この草の上を踏んだ瞬間に車内の線量計が一斉に反応

20 μ Sv/h → 28 μ Sv/h

線量計、どう生かすか？

- ▶ 測定結果：マクロな視点での放射性物質移動の評価
 - 易動性(mobility)
 - 人口環境(守谷)ではなく、自然による易動性の評価
- ▶ 測定方法：性能をデチューン(=安価)して市民に提供



人工水路の終端

赤丸が除染基準値
($0.23\mu\text{Sv/h}$)超え

測定点は3200点

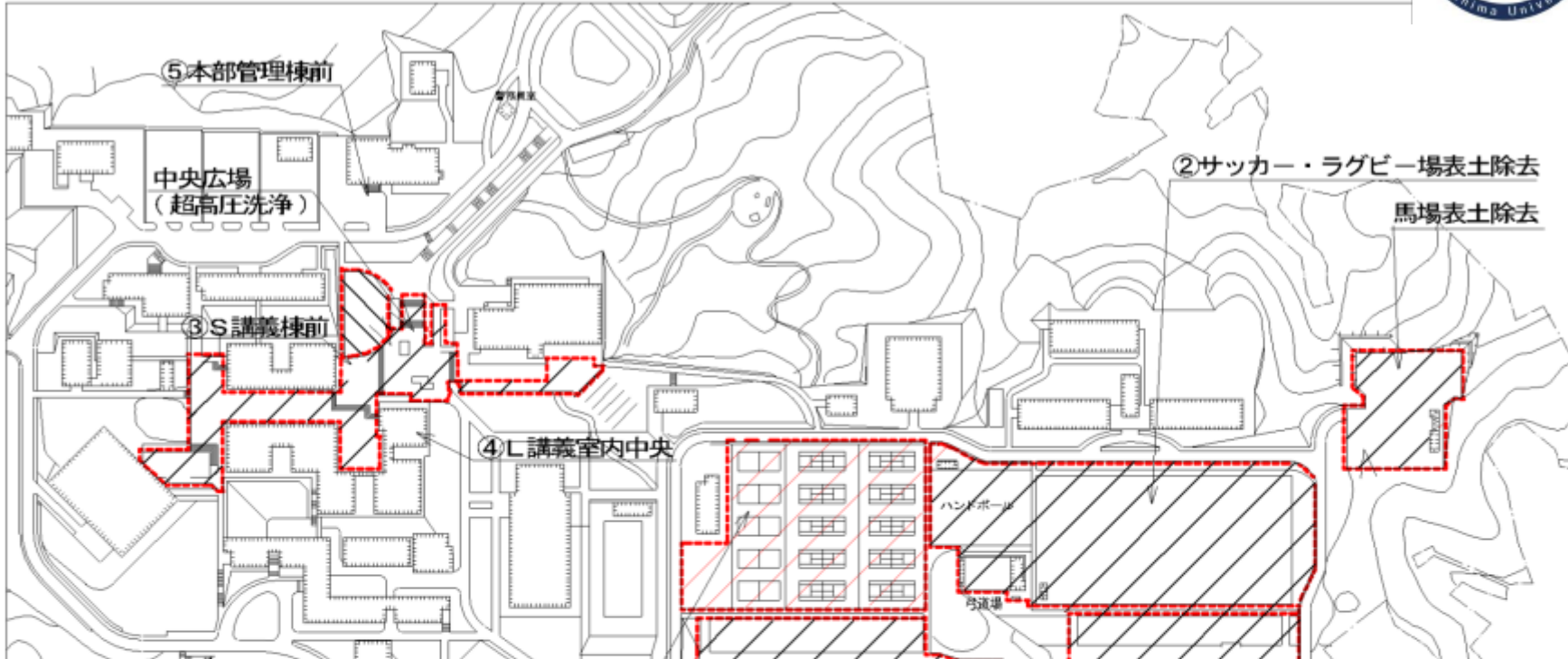
一人で2時間で測定

除染とは



- ▶ 大規模プラント・重機を使った除染
 - 表層土壌を重機でかき集め、同敷地内に埋立
 - 線量低減には繋がるが、すべての除染に適した方法ではない
 - 高コスト
 - 除染の順番待ちが発生
- ▶ 手作業、泥さらい、立ち入り規制
- ▶ 「減容化」・「高濃縮」化が鍵！
- ▶ より簡単に、線量の低減ができないものか...？

福島大学の放射能汚染 2011年3月24日



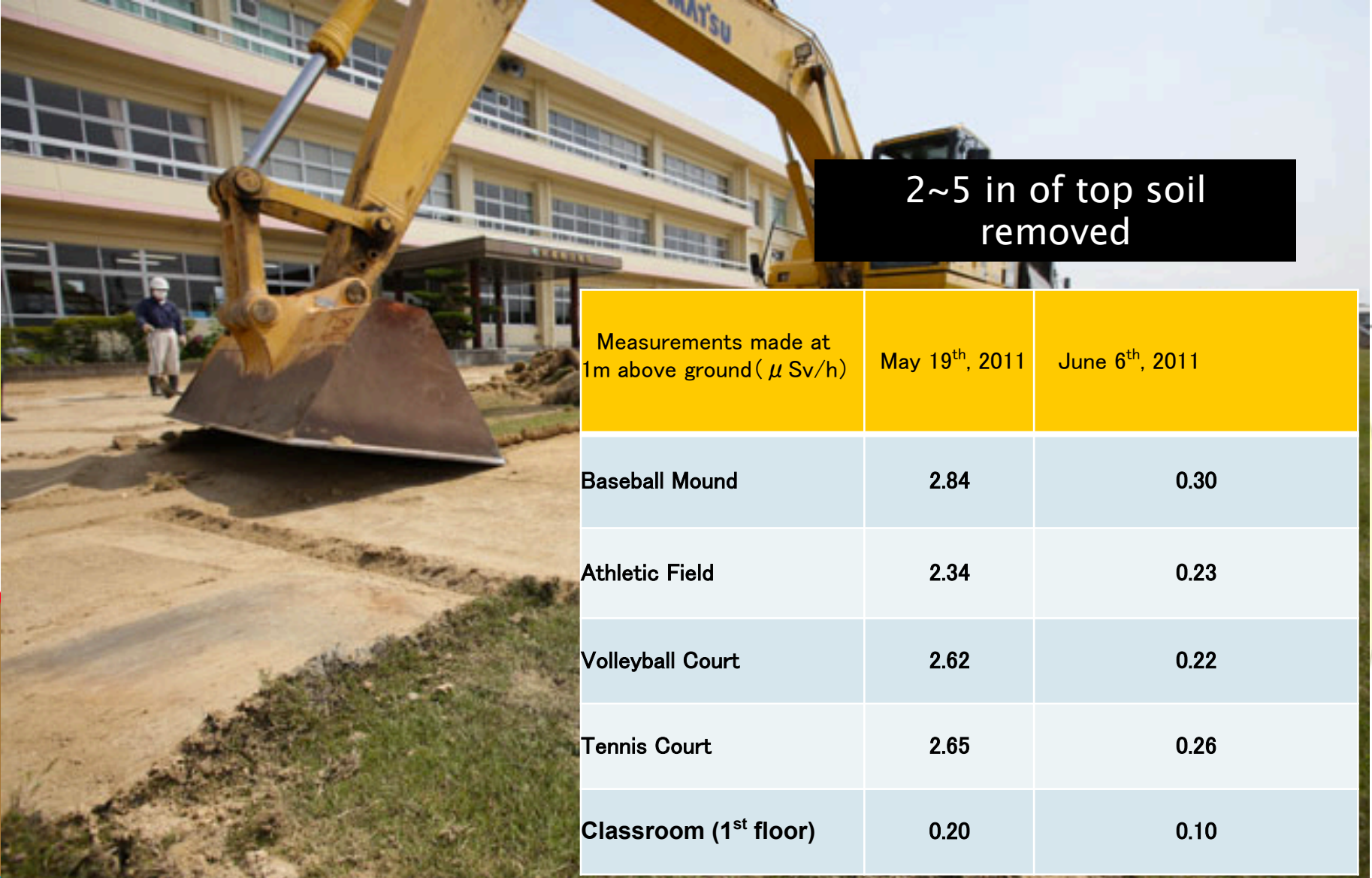
Area Measured	Baseball Field ①	Soccer / Rugby Field ②	Central Area Consisting of Interlocking Bricks ③	Classroom L4 ④	Administration Building ⑤
Date					
	2011/03/24	6.50 $\mu\text{SV/h}$	6.07 $\mu\text{SV/h}$	4.42 $\mu\text{SV/h}$	0.20 $\mu\text{SV/h}$
		1.56 $\mu\text{SV/h}$			

※ 地上高1mの計測値

福島大学キャンパス内の除染



表土はぎ取りによる除染



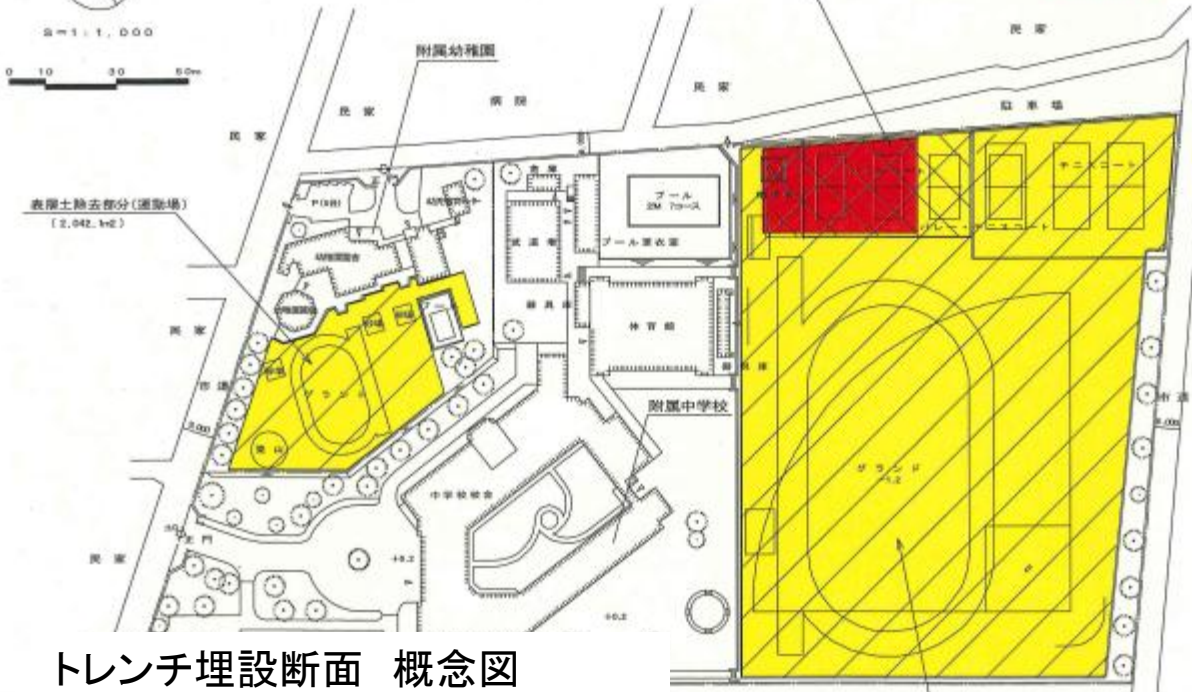
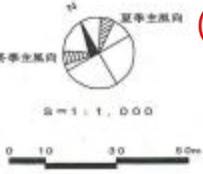
2~5 in of top soil removed

Measurements made at 1m above ground (μ Sv/h)	May 19 th , 2011	June 6 th , 2011
Baseball Mound	2.84	0.30
Athletic Field	2.34	0.23
Volleyball Court	2.62	0.22
Tennis Court	2.65	0.26
Classroom (1 st floor)	0.20	0.10

キャンパスの除染: 表土入替工事 表土埋設トレンチ場所

(赤枠部分が表土埋設トレンチ部分)

凡例	
	表層土除去 (t=5cm)
	集中埋設処理 (H=1.5m)



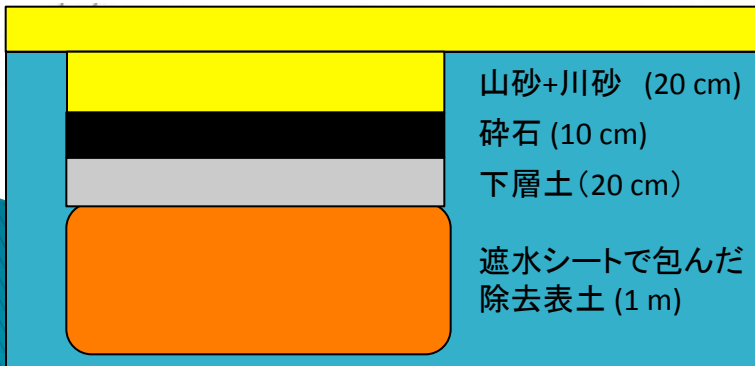
5/27遮水シートで表土被覆作業



6/8施行後のトレンチ上部
(野外バレーボールコート)



トレンチ埋設断面 概念図



工期: 5月22日(日)~6

環境省による除染基準は0.23 $\mu\text{Sv}/\text{h}$

- ▶ この場合の測定高さは0.5 – 1.0 m
 - 0.5mは小学校以下及び特別支援学校の場合
 - 1.0mはその他の場合(実際には自治体側の判断による)
- ▶ 正直、この基準を越える/越えないことに興味関心はない。
 - 追加外部被曝1 mSv/年が基準
 - 追加 1 mSv/年 = [0.19 $\mu\text{Sv}/\text{h}$ × (8時間 + 0.4 × 16時間)] × 365日
 - 自然放射能は0.04 $\mu\text{Sv}/\text{h}$ と一律に計算。なので、線量計では0.23が基準
 - 実測値とのズレで現在問題になっている。
- ▶ 計算上0.5mで測ろうが1.0mで測ろうが大差はない(面線源なので)
 - (ただ、実際に0.5–1.0mで測定していたら空間分解能が悪すぎる)

「換算係数」は避難計画・除染費用に直結する大問題



福島民報
2013年 10月 16日 (水)

会津 12~18時 60%
中通り 12~18時 50%
浜通り 12~18時 50%

Google™ カスタム検索



**ドコモの
タブレットと暮らそう**



記事データベース | 事業ガイド | 出版ガイド | ふくしますい〜つ | ふくしまこだわりら〜めん | English | 各種お問い合わせ

トップ ニュース スポーツ あぶくま抄・論説 E! 新聞 伝次郎クラブ お買い物 住まい 就勝ナビ 企業情報 ご購読

東日本大震災

ツイート 233 いいね! 1,116 チェック 気になる B! 16

第四部 岐路に立つ除染(6) 1ミリの呪縛 換算係数 実測と隔たり

平成25年度までに予算計上された国の除染関連費用は1兆5351億円に上る。最終的に県内の除染にどれだけの費用がかかるか。

国が概算すら示さない中、茨城県つくば市にある産業技術総合研究所(産総研)の研究グループは7月末、県内の除染費は最大で5兆1300億円に上るとする試算結果を公表した。

「除染後に放射線量はどれくらいになるのか。何ができて、何ができないのか。生活設計を立てられない住民のために、国は予算の大枠を示してきちんと説明する必要がある」。産総研フェローの中西準子(75)は試算の狙いを



カテゴリー

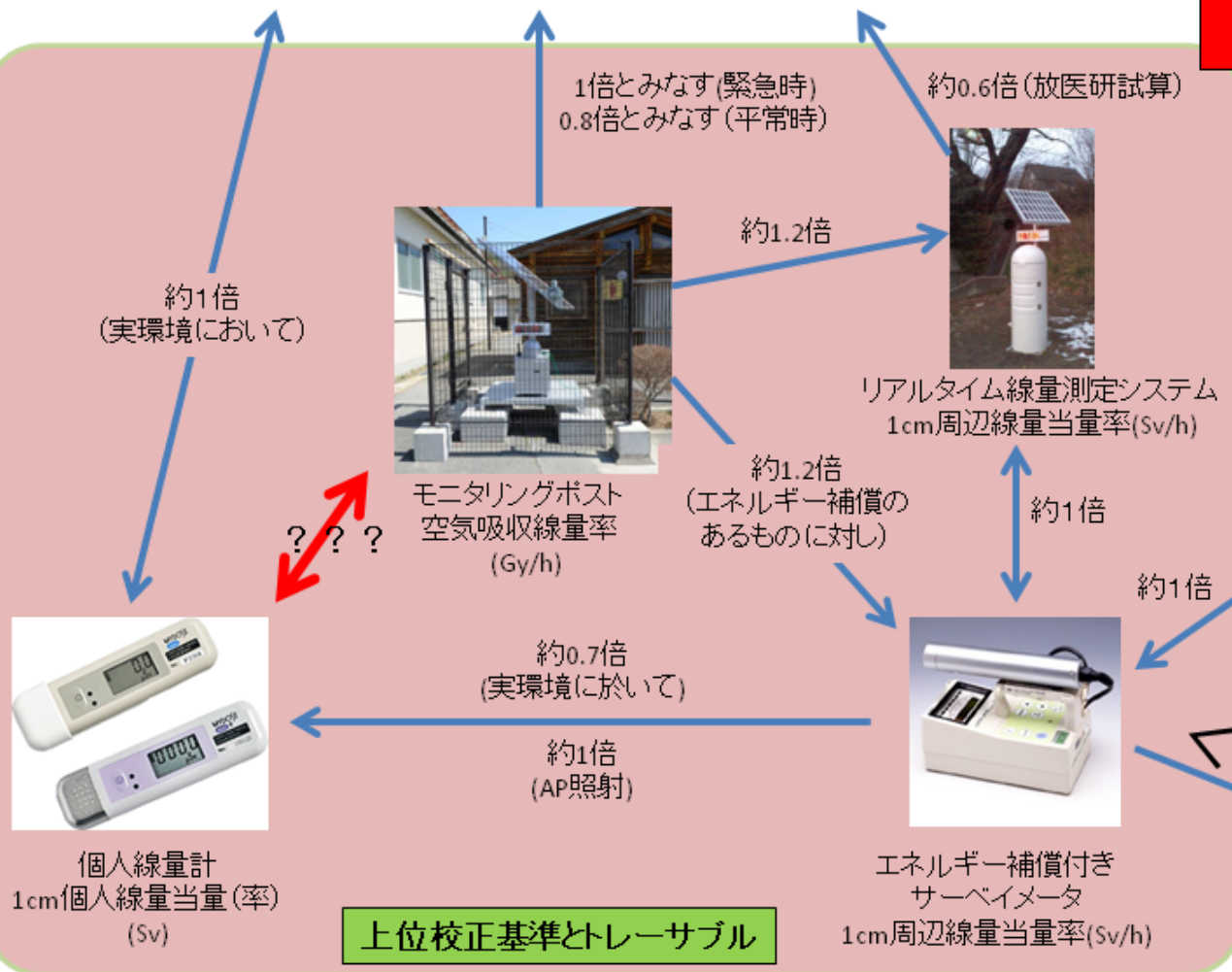
- ▶ 震災から2年7カ月 [4]
- ▶ 連載・再起2013 [36]
- ▶ 放射線 放射性物質 Q & A [97]
- ▶ 3.11大震災・断面 [360]
- ▶ 原発事故関連死 [74]
- ▶ 福島第一原発事故 [2653]
- ▶ 震災から2年5カ月 [14]
- ▶ 震災から2年3カ月 [15]
- ▶ 震災から2年1カ月 [10]
- ▶ 震災から2年6カ月 [65]
- ▶ 連載・今を生きる [491]
- ▶ あなたを忘れない [135]
- ▶ 3.11大震災・検証 [35]
- ▶ ベクレルの嘆き 放射線との戦い [85]
- ▶ 食の安全 求めてベラルーシ・ウクライナの挑戦 福島市派遣団同行 [3]
- ▶ 震災から2年4カ月 [14]
- ▶ 震災から2年2カ月 [11]
- ▶ 3.11大震災・福島と原発 [169]

遮蔽の問題だけではなく測定機間のトレーサビリティも問題に

実効線量, MP, 空間線量, 個人線量

実効線量(率)(推定値) (Sv, Sv/h)

注: 議論のためのものであり, 倍率の数字は厳密なものではない



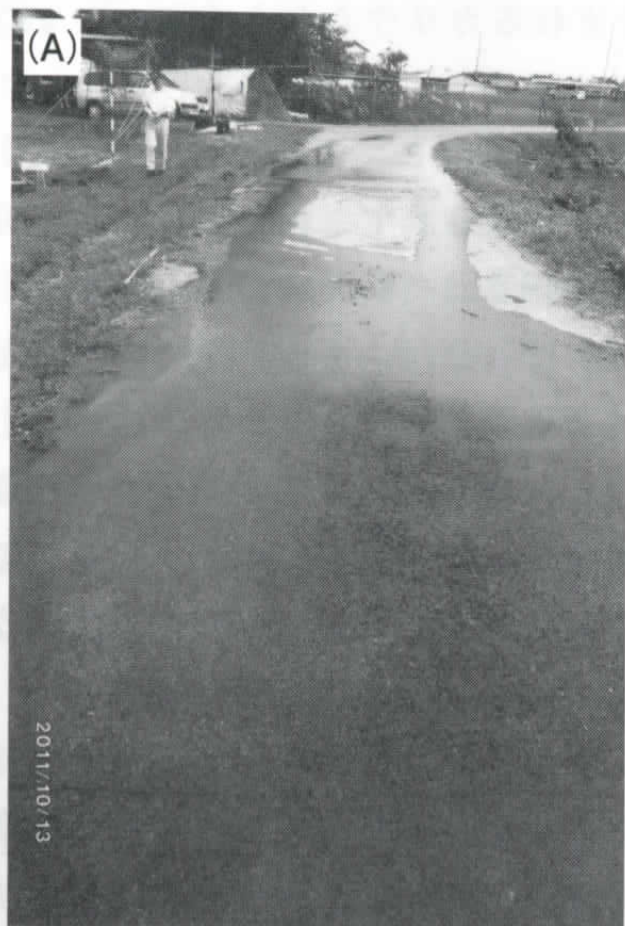
一般の空間線量計
(サーベイメータ) (Sv/h)
(エネルギー補償あり)

一般の空間線量計
(サーベイメータ) (Sv/h)
(エネルギー補償無し)

飯舘村・長泥地区(帰還困難区域)にある仮置き場



過酸化水素水を使った舗装道路の除染例



除染前後でガンマ線量を50%程度低減
田崎和江(金沢・名誉教授)



図 10 アスファルトの農道における過酸化水素による除染作業

(A) 福島県南相馬市の農道：手前は未処理，奥の白い部分が処理後。

(B) 3.5%過酸化水素溶液を撒いた瞬間の様子。泡は酸素である。

もみ殻を用いた吸着実験

- ▶ もみ殻は安価で簡単に用意ができる吸着剤として報告*があるが、その吸着機構や吸着剤としての評価は不十分 (*日本農業新聞, 2011年12月プレスリリース)など

もみ殻

生産地:茨城県筑西市
収穫年:2010年
保管:屋内



稲わら

生産地:茨城県坂東市
収穫年:2011年
保管:屋外



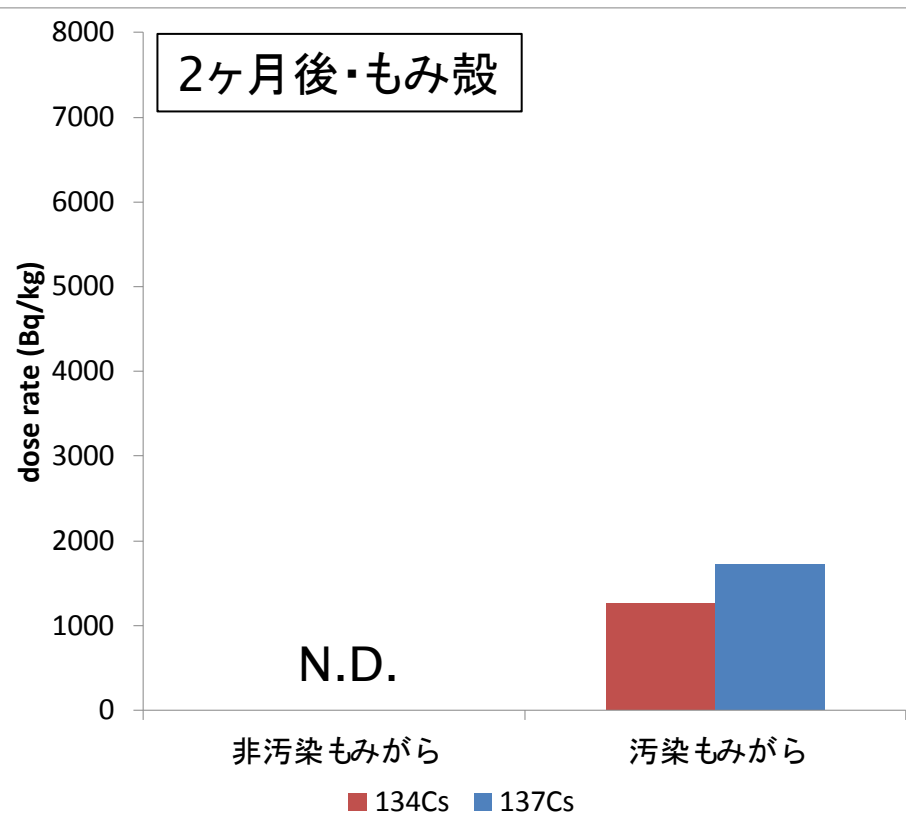
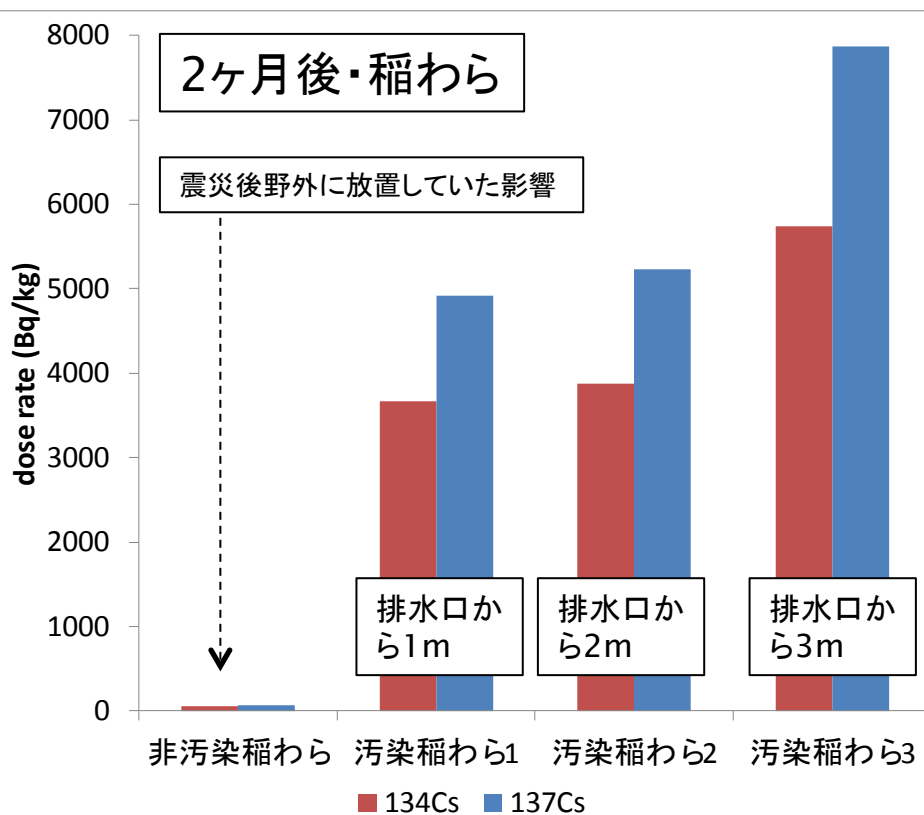
日付
(2012年)

作業内容(守谷市内・雨水排水溝直下)

- | | |
|-------|---|
| 1月22日 | 湿地にもみ殻、稲わらを設置して試験開始 |
| 2月12日 | 線量測定のため湿地からもみ殻、稲わらをいったん取出し、乾燥 |
| 2月13日 | 線量測定後、元の場所に再度設置 |
| 3月20日 | 湿地からもみ殻、稲わらを取り出し、バケツに汲んだ水ですすいだ後に乾燥(すすぎは都度新しい水道水に交換) |

放射能の経時変化

- ▶ もみ殻袋直上の空間線量率の変化(浸け置き開始から22日後)
 - 0.39→ 0.47 (uSv/h)



測定条件:

1. Ge半導体検出器によるγ線測定, 測定時間7200sec(live),
2. 東京大学アイソトープ総合センター

吸着前後の様子(もみ殻)

γ線測定前に水で洗浄しており、明らかな
土壌粒子は目視では確認できない



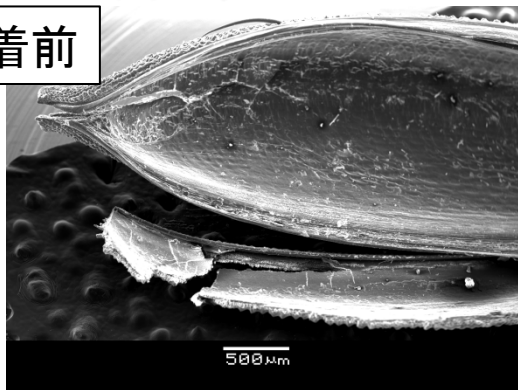
吸着前



吸着後

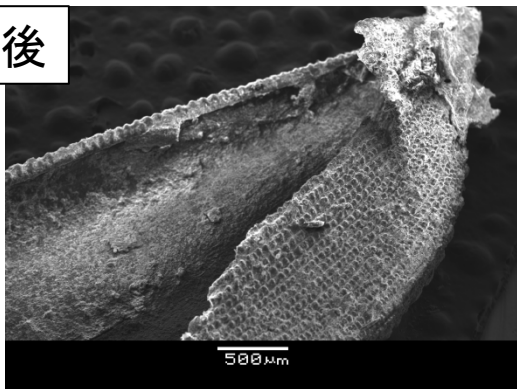
もみ殻表面の電子顕微鏡画像

吸着前

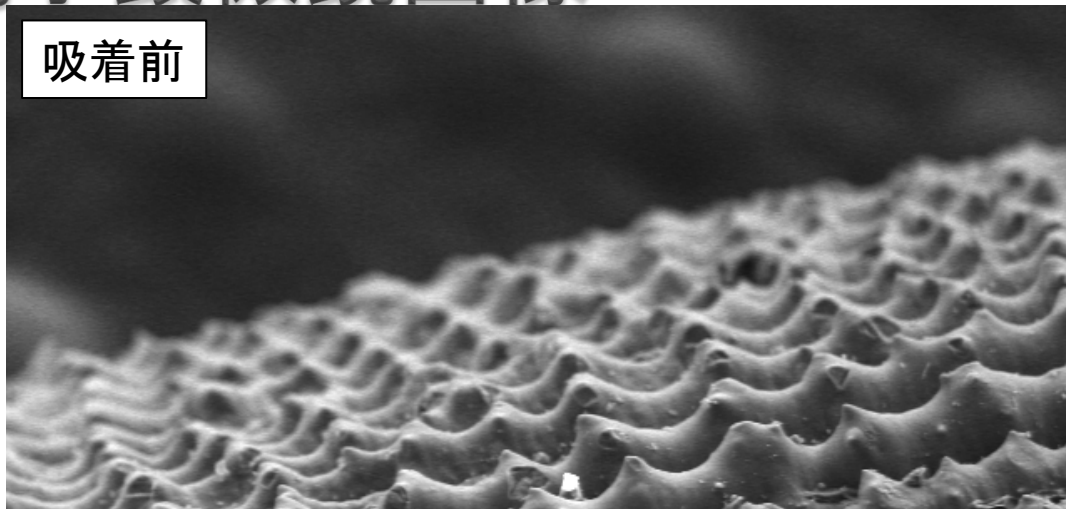


- ▶ もみ殻表面に菌類が繁茂した痕跡が見られる

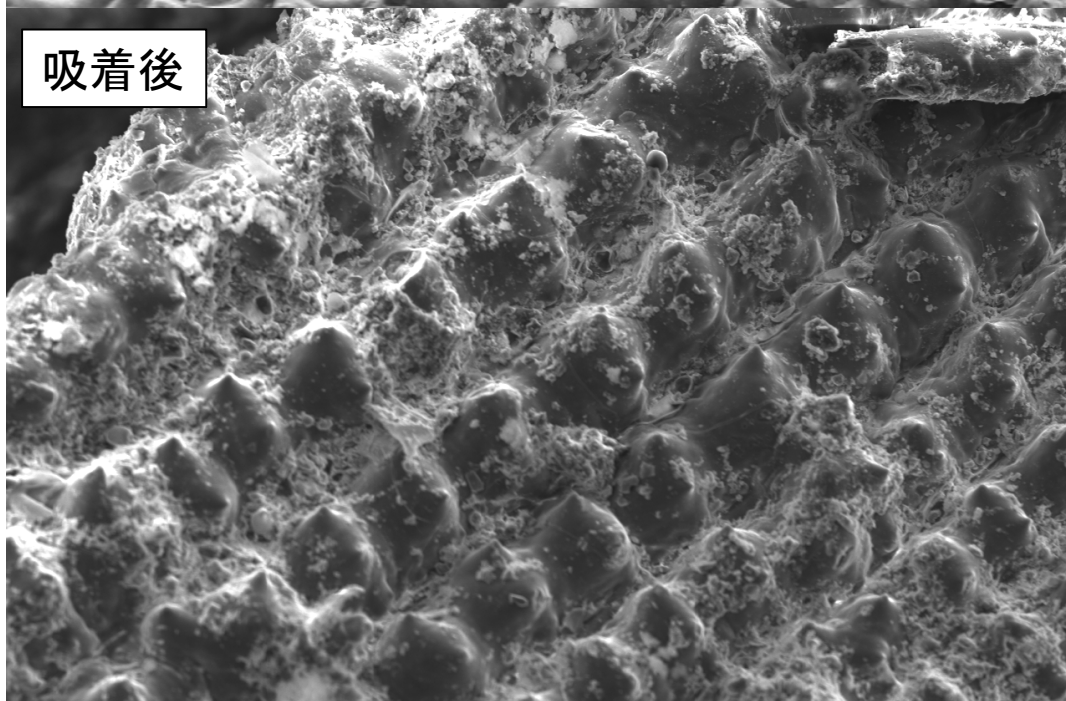
吸着後



吸着前



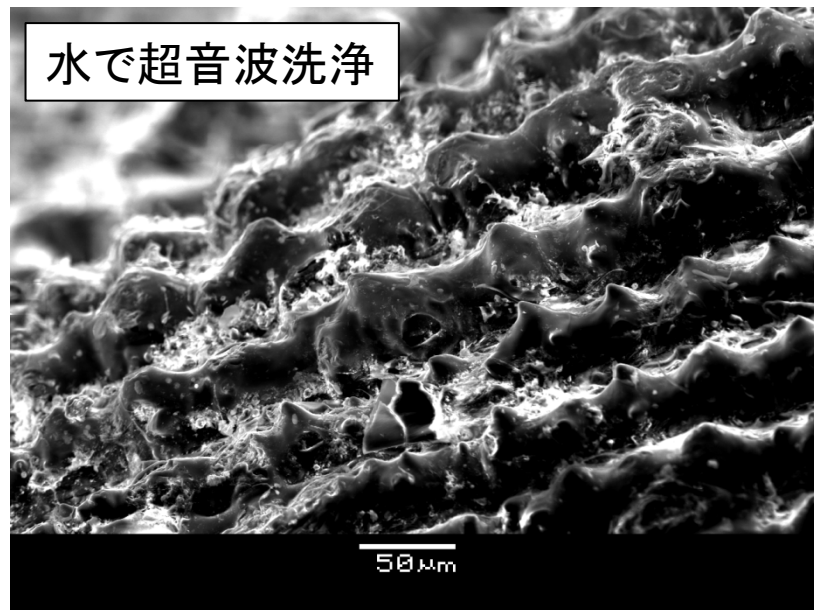
吸着後



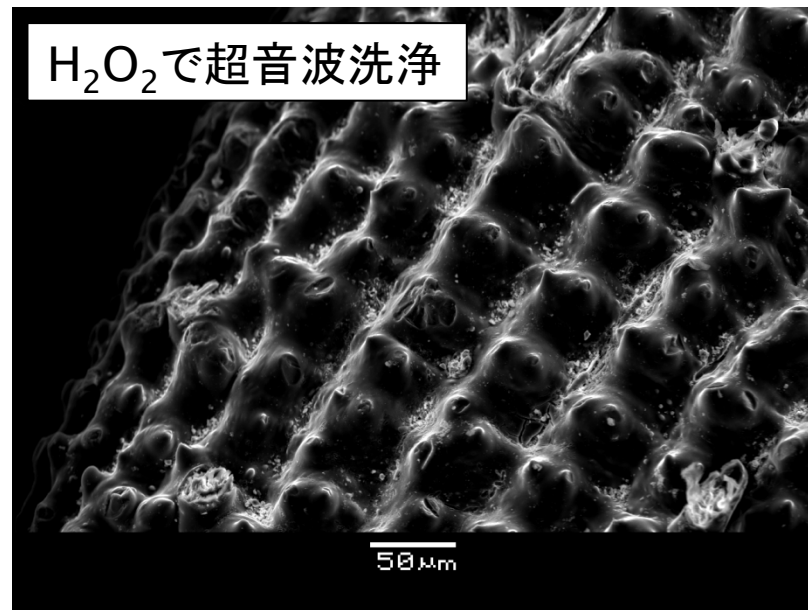
100 μm

菌類が放射性セシウムがを吸着

小豆川ら, もみ殻等を用いる環境水中の放射性セシウムの除染法の検討, 分析化学, 62(6), 547, 2013.



3,500 → 3,300 (Bq/kg $^{134+137}\text{Cs}$)



3,500 → N.D. (Bq/kg $^{134+137}\text{Cs}$)

- ▶ もみ殻そのものではなく、表面に付着していた菌類が放射性セシウムを吸着（稲わらも同様）
- ▶ 放射性セシウムは簡単に脱離しないことから、放射性物質の管理上安全。
- ▶ 吸着後のもみ殻・稲わらは焼却することで、体積を10%以下に低減可能。

環境中における放射性セシウム吸着剤として「もみ殻・稲わら」は極めて有効

(余談)都内公立小学校での放射線授業



資料の作成にはものすごく気を遣った。タイトルは「放射線の測り方と気をつけること」

化学講義のさいごに

- ▶ 福島第一原子力発電所の1-4号機は廃止(廃炉)になりますが、事故を完全に収束させるには数十年単位の時間を要します。
- ▶ あまりに難しい課題ですが、廃炉に向けた新しい技術を研究・開発していく必要があります。
- ▶ 原発から遠く離れていても、(人体への影響はともかく)長く付き合わざるを得ない案件です。
- ▶ この講義でお知らせしたことには、(測定原理以外は)まだまだ不確定要素が含まれています。
- ▶ 継続して関心を持ち続けて下さい。

化学分野からの課題#3

- ▶ 放射性物質の拡散事故を想定したとき、大気拡散モデルによるシミュレーションは極めて重要であるが、福島原発事故では、シミュレーションと、実試料での放射能の測定値の間には、1桁の違いが生じてしまっていた。
- ▶ 1. この原因を考察せよ。
- ▶ 2. このことを受けて、避難の判断に役立たせる事故初期の拡散予測モデルとはどうあるべきか、放射性貴ガス(^{133}Xe など)、放射性ヨウ素(^{131}I など)、放射性セシウム(^{134}Cs , ^{137}Cs など)の主な核種の化学的特性や半減期に触れながら考察せよ。